

相対取引価格・数量③（奈良から鹿児島まで）

（単位：円／玄米60kg税込、玄米トン）

産地	品種銘柄	価格 28年産米 (29年6月) ①	数量 28年産米 (29年6月) ②	参 考								年産平均価格		
				価 格				数 量				28年産米 〔出回り～ 29年6月〕	27年産米 〔出回り～ 28年10月〕	対前年比
				28年産米 (29年5月)	対前月比	27年産米 (28年6月)	対前年比	28年産米 (29年5月)	対前月比	27年産米 (28年6月)	対前年比			
					/		/		/		/			/
奈良	ヒノヒカリ	12,607	103	13,283	95%	12,072	104%	225	46%	852	12%	12,921	12,123	107%
奈良	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,169	12,525	105%
鳥取	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,004	13,306	105%
鳥取	きぬむすめ	13,126	200	-	-	12,308	107%	-	-	477	42%	13,162	12,316	107%
鳥取	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,056	12,112	108%
島根	コシヒカリ	14,828	1,545	15,346	97%	14,001	106%	790	196%	663	233%	14,725	13,606	108%
島根	きぬむすめ	13,889	418	13,523	103%	12,271	113%	233	179%	604	69%	13,410	12,511	107%
島根	つや姫	14,659	578	-	-			-	-			14,517		
岡山	アケボノ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,361	11,536	116%
岡山	あきたこまち	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,834	11,885	116%
岡山	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,804	12,051	115%
広島	コシヒカリ	13,871	3,537	14,042	99%	12,777	109%	663	533%	1,063	333%	14,158	12,933	109%
広島	あきろまん	12,969	288	-	-	-	-	-	-	-	-	13,156	11,983	110%
広島	ヒノヒカリ	12,749	569	12,755	100%	11,737	109%	367	155%	363	157%	12,829	11,764	109%
山口	コシヒカリ	14,561	758	14,478	101%	13,641	107%	2,012	38%	1,135	67%	14,446	13,708	105%
山口	ひとめぼれ	13,531	290	13,356	101%	12,510	108%	1,960	15%	710	41%	13,295	12,648	105%
山口	ヒノヒカリ	13,466	294	13,375	101%	12,708	106%	1,352	22%	963	31%	13,353	12,696	105%
徳島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,035	12,970	108%
徳島	キヌヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,275	11,561	115%
香川	ヒノヒカリ	13,193	1,039	13,208	100%	12,277	107%	978	106%	941	110%	13,193	12,322	107%
香川	コシヒカリ	13,927	892	13,730	101%	13,314	105%	990	90%	709	126%	13,852	13,343	104%
愛媛	コシヒカリ	13,136	354	13,149	100%	-	-	328	108%	-	-	13,351	12,536	107%
愛媛	ヒノヒカリ	12,352	131	12,338	100%	-	-	150	87%	-	-	12,498	11,740	106%
愛媛	あきたこまち	12,355	163	12,352	100%	-	-	114	143%	-	-	12,558	11,732	107%
高知	コシヒカリ	13,860	1,413	14,250	97%	13,052	106%	432	327%	1,424	99%	14,481	13,511	107%
高知	ヒノヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,602	12,630	108%
福岡	夢つくし	15,632	1,075	15,694	100%	15,245	103%	2,100	51%	551	195%	15,788	15,215	104%
福岡	ヒノヒカリ	14,324	839	14,313	100%	13,689	105%	954	88%	1,099	76%	14,190	13,493	105%
福岡	元気つくし	15,660	1,180	15,643	100%	14,409	109%	2,506	47%	1,347	88%	15,592	14,998	104%
佐賀	さがびより	14,135	734	14,168	100%	14,181	100%	898	82%	822	89%	14,123	14,089	100%
佐賀	夢しずく	13,407	598	13,327	101%	12,796	105%	640	93%	790	76%	13,320	12,940	103%
佐賀	ヒノヒカリ	12,945	298	13,008	100%	12,608	103%	207	144%	859	35%	13,108	12,630	104%
長崎	にこまる	-	-	14,808	-	14,281	-	214	-	100	-	14,714	14,180	104%
長崎	ヒノヒカリ	-	-	14,584	-	-	-	120	-	-	-	14,397	13,857	104%
長崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,193	14,785	103%
熊本	ヒノヒカリ	14,350	1,600	14,294	100%	13,720	105%	478	335%	675	237%	14,251	13,608	105%
熊本	森のくまさん	14,619	1,638	14,591	100%	14,190	103%	508	322%	389	421%	14,514	14,330	101%
熊本	コシヒカリ	16,022	1,960	15,982	100%	14,837	108%	453	433%	282	695%	15,796	14,534	109%
大分	ヒノヒカリ	14,170	316	13,991	101%	12,903	110%	117	270%	536	59%	14,169	13,197	107%
大分	ひとめぼれ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,457	13,402	108%
宮崎	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,721	14,266	103%
宮崎	ヒノヒカリ	-	-	14,572	-	13,150	-	140	-	343	-	14,325	13,622	105%
鹿児島	ヒノヒカリ	15,190	183	15,152	100%	14,455	105%	262	70%	232	79%	15,160	14,229	107%
鹿児島	あきほなみ	16,510	172	16,405	101%	15,482	107%	132	130%	166	104%	15,310	14,822	103%
鹿児島	コシヒカリ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,222	14,414	106%
全銘柄平均価格、合計数量		14,442	93,308	14,455	100%	13,265	109%	95,532	98%	84,472	111%	14,300	13,175	109%

注：本表の注意点は、前々頁の脚注を参照。

(4) スポット価格の状況

〔○ スポット取引は、相当期間にわたり安定的に行う相対取引等と性格を異にするので利用に当たっては注意が必要。〕

スポット価格 [日本コメ市場株式会社]

税抜価格

【平成28年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成28年 8月	9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
北海道なつぽし	日本コメ市場（取引会）									15,193			
北海道きらら397	日本コメ市場（随時）								14,106				
青森まっしぐら	日本コメ市場（取引会）		12,925										
青森つがるロマン	日本コメ市場（随時）				13,093	13,175		13,451					
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）					13,500	13,557		13,500				
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場（随時）							13,550					
	日本コメ市場（取引会）												14,700
秋田あきたこまち	日本コメ市場（随時）		13,507	13,691	13,635	13,646	13,893	14,544	14,466	14,419	14,958	15,300	15,567
	日本コメ市場（取引会）		13,471			13,731	13,883		14,391	14,614			15,500
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場（随時）			13,200			13,160			13,533	13,550	14,390	
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）									13,360			
茨城コシヒカリ	日本コメ市場（随時）								13,481	13,631	14,011	14,250	
	日本コメ市場（取引会）	13,151	13,450				13,441		13,495	13,700			
茨城あきたこまち	日本コメ市場（取引会）	12,834											
栃木コシヒカリ	日本コメ市場（随時）				13,200	13,147	13,500	13,586	13,601	13,725	13,765	14,168	
	日本コメ市場（取引会）					13,145							14,350
栃木あさひの夢	日本コメ市場（取引会）					12,900	12,919						
千葉ふさこがね	日本コメ市場（取引会）		12,913						13,310				
千葉ふさおとめ	日本コメ市場（取引会）	12,661											
新潟コシヒカリ（一般）	日本コメ市場（随時）										14,717	14,864	14,933
	日本コメ市場（取引会）		15,231			14,400	14,325		14,117	13,950			15,300
富山コシヒカリ	日本コメ市場（取引会）												14,412

【平成27年産】

(関東到着基準、1等、包装代込、税抜、円/60kg)

産地、銘柄		平成27年 9月	10月	11月	12月	平成28年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
北海道なつぽし	日本コメ市場（取引会）		12,406										
北海道きらら397	日本コメ市場（随時）										12,400		
青森つがるロマン	日本コメ市場（随時）				11,400	11,638	11,623	11,883				12,462	
	日本コメ市場（取引会）											12,700	
岩手ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）						12,446	12,648	13,241				
宮城ひとめぼれ	日本コメ市場（随時）			12,196						14,337			
秋田あきたこまち	日本コメ市場（随時）	11,724	11,722		12,000	12,046	12,255	12,768	13,960	14,425	14,240	13,483	
	日本コメ市場（取引会）		11,732			12,048		12,455	14,070			13,352	13,689
福島中通コシヒカリ	日本コメ市場（随時）		11,429			12,053	12,000	12,064	12,640	12,771		12,322	
	日本コメ市場（取引会）											12,169	12,550
福島中通ひとめぼれ	日本コメ市場（取引会）			11,503					12,688				
茨城コシヒカリ	日本コメ市場（随時）	11,463	11,661	11,800	11,938		12,299	12,172	12,733	12,958		12,419	
	日本コメ市場（取引会）		11,766	11,650		11,917		12,135	12,593				
栃木コシヒカリ	日本コメ市場（随時）			11,700	11,700		12,253	12,215	12,516	13,100			
	日本コメ市場（取引会）											12,209	
栃木あさひの夢	日本コメ市場（取引会）			11,200		11,214							
千葉ふさおとめ	日本コメ市場（取引会）		10,851										
千葉あきたこまち	日本コメ市場（取引会）			11,500		11,581		12,152					
新潟コシヒカリ（一般）	日本コメ市場（随時）			15,371	15,551		15,548	15,654	15,465	15,537			
	日本コメ市場（取引会）		14,971	15,363		15,479		15,568	15,466			14,760	14,138

出典： 日本コメ市場株式会社HP

注：1 日本コメ市場（随時）の価格は、随時取引（取引日を限定せずに、ファックス、電話、IT等によって行う取引）の下期（16日～月末分。ただし、下期が公表されていない場合は上期）の価格で、関東到着基準、1等、包装代込の価格。

2 日本コメ市場（取引会）の価格は、原則毎月、東京、大阪及び福岡において日本コメ市場、クリスタルライスの共同で開催される取引会での成約価格（取引数量により加重平均）であり、関東到着基準、1等、包装代込みの価格。

2 米の先物取引価格の推移

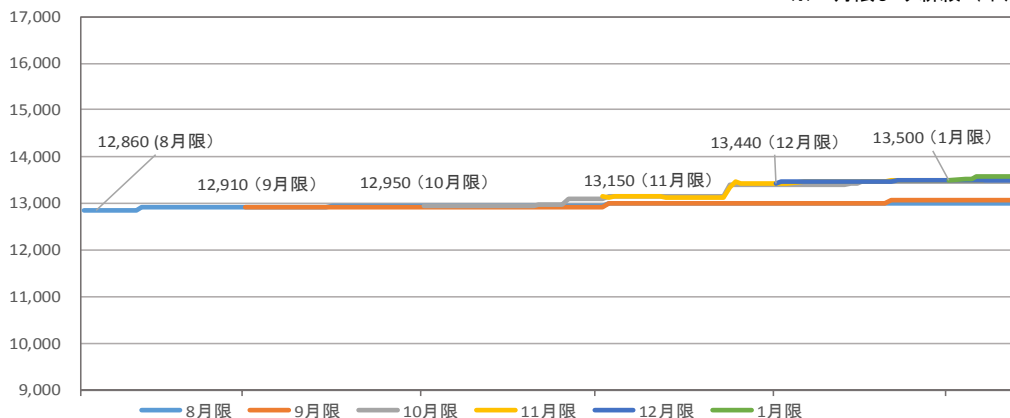
- 米の先物取引価格(8月2日)は、先月(7月3日)に比べ終値で、東京コメが±0円/60kg(8月限)～+100円/60kg(11月限)、大阪コメが±0円/60kg(8、9、12月限)～+90円/60kg(10月限)、新潟コシが+280円/60kg(8月限)～+410円/60kg(12、2、6月限)。

①東京コメ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

※10月限より新穀(平成29年産)

税抜価格



13,600(1月限)
13,550(11月限)
13,500(12月限)
13,450(10月限)
13,060(9月限)
13,000(8月限)

出典:大阪堂島商品取引所

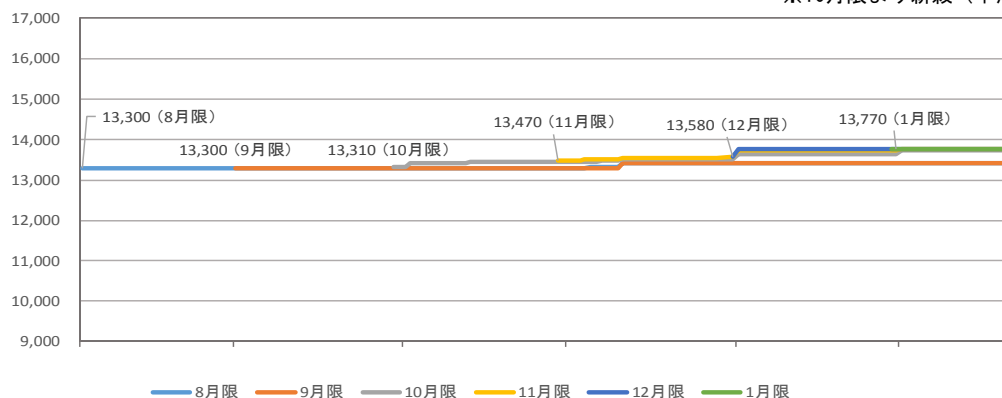
注:平成29年1月23日から平成29年6月30日までの価格の推移である。

②大阪コメ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

※10月限より新穀(平成29年産)

税抜価格



13,770(12月限)
13,770(1月限)
13,760(11月限)
13,740(10月限)
13,400(8月限)
13,400(9月限)

出典:大阪堂島商品取引所

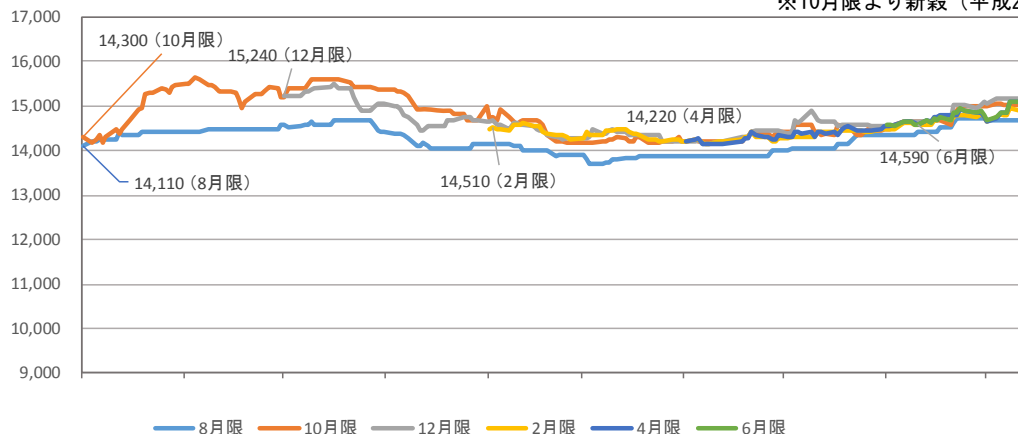
注:平成29年1月11日から平成29年6月30日までの価格の推移である。

③新潟コシ

(単位:円/60kg、包装代込、税抜)

※10月限より新穀(平成29年産)

税抜価格



15,100(6月限)
15,050(12月限)
15,050(4月限)
15,000(2月限)
14,990(10月限)
14,680(8月限)

出典:大阪堂島商品取引所

注:平成28年10月21日から平成29年6月30日までの価格の推移である。

3 米取引関係者の判断(米穀機構による調査、平成29年7月分)

- 米穀機構が公表している米取引関係者の判断に関する調査(平成29年7月分)によると、主食用米の需給動向は、前月に比べ現状判断は▲2ポイント、見通し(向こう3ヶ月)判断は▲5ポイント。

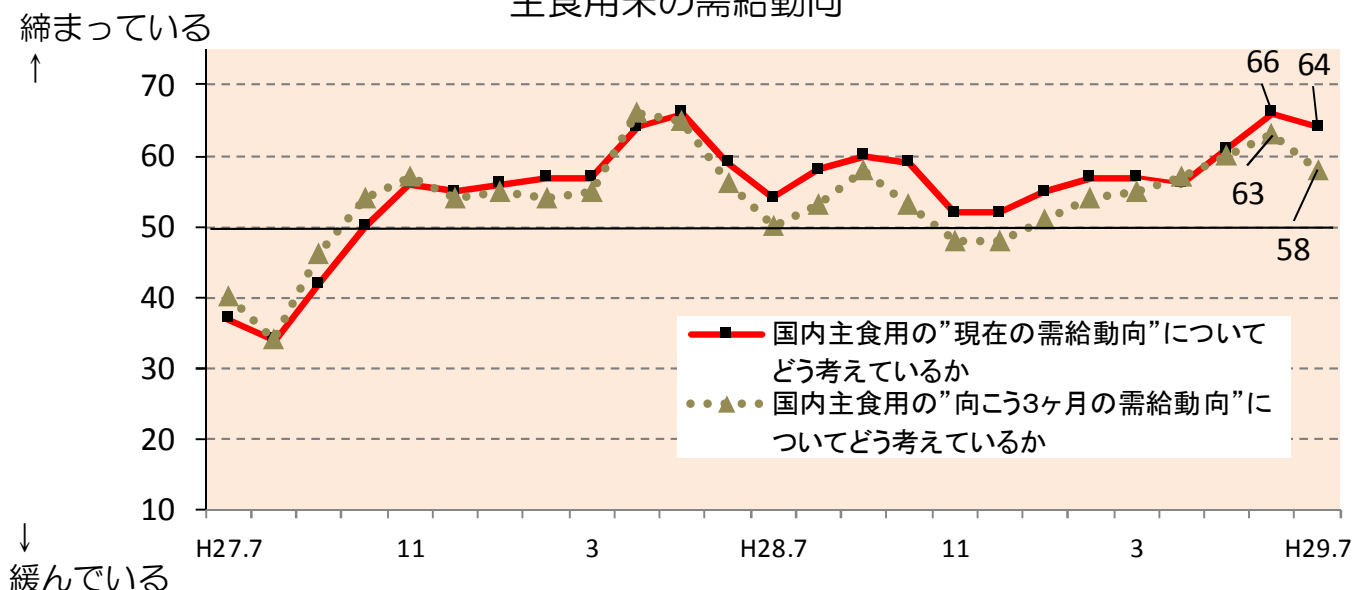
国内の主食用米の需給及び価格動向に関する判断(全体)

① 主食用米の需給動向

(ア) 現状判断D I 前月からの増減 ▲ 2 (今月の数値 64)

(イ) 見通し判断D I (向こう3ヶ月) 前月からの増減 ▲ 5 (今月の数値 58)

主食用米の需給動向



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「締まっている」/「(将来) 締まる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「緩んでいる」/「(将来) 緩む」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

以上の他、「自社の取引状況に関する判断(業態ごと)」など
詳細な情報は、米穀機構ホームページ(米ネット)を参照ください。

【<http://www.komenet.jp/>】

また、マンスリーレポート(資料編)にも掲載しております。

《アンケート方法等》

- 調査期間: 毎月1日から25日までの取引状況を踏まえて回答
- 調査方法: 電子メールを利用したアンケート調査
- 調査対象者: 全国の生産者、集出荷業者、卸・小売業者等の165客体
- 有効回答数: 130客体
 - 生産者..... 11
 - 集出荷業者/団体..... 25
 - 卸売業者(主に主食用米)..... 26
 - 小売業者/中食・外食業者..... 51
 - その他..... 17

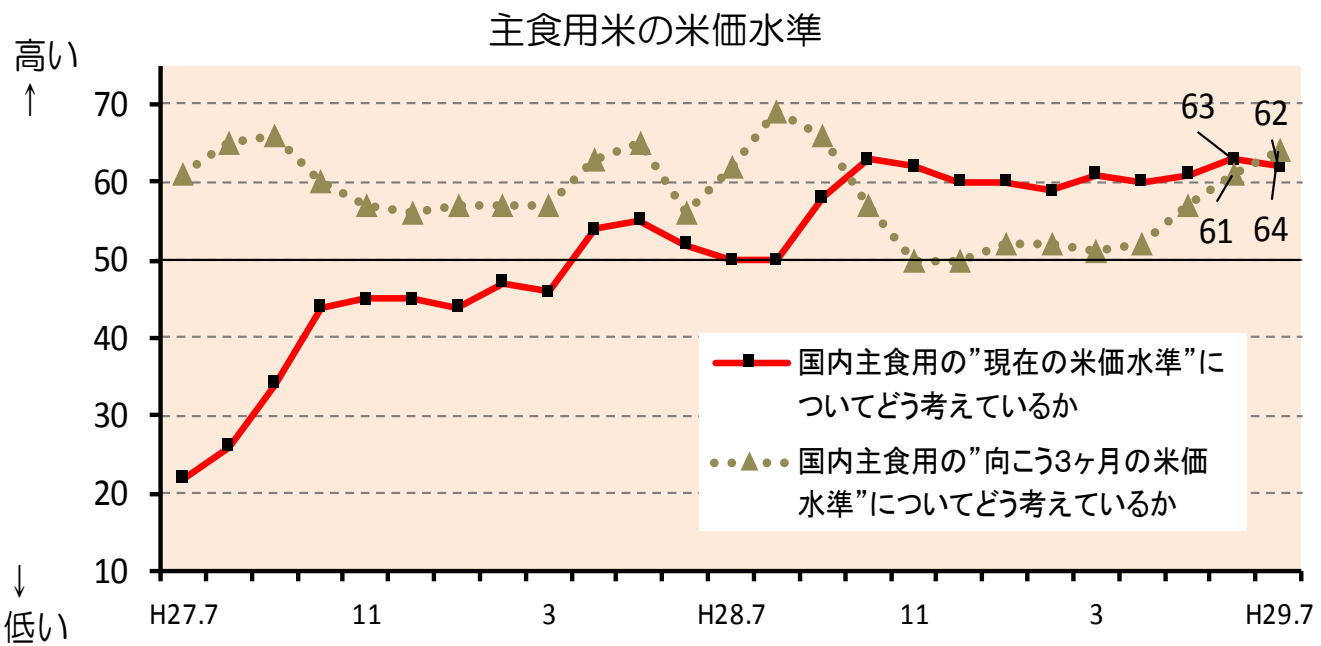
※「その他」は以下の業者です。

- ・米穀の販売の事業を行う者のうち、主に加工原材料の卸売の事業を行う者
- ・加工原材料米穀を使用し、加工食品(酒類を含む)を製造・販売する者

- 米価水準は、前月に比べ現状判断は▲1ポイント、見通し（向こう3ヶ月）判断は+3ポイント。

② 主食用米の米価水準

(ア) 現状判断D I	前月からの増減 ▲1	(今月の数値 62)
(イ) 見通し判断D I（向こう3ヶ月）	前月からの増減 +3	(今月の数値 64)



※ 当月の数値が前月と比較し100に近づけば、「米価水準が高い」/「米価水準が高くなる」という見方が前月より強くなり、反対に0に近づけば、「米価水準が低い」/「米価水準が低くなる」という見方が前月より強くなった傾向を示します。

《利用上の注意》
○ 表示単位未満の端数は四捨五入したため、合計と内訳が一致しないことがあります。

《DIの算出方法》
米の需給動向・価格水準などに関する現状、または先行きに対する5段階の判断(評価)にそれぞれ点数(評価点)を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じてDIを算出します。
ただし、DIの推移は、変化の方向性を示すものであり、その変化の大きさ(量感)を表すものではありません。例えば、大幅であろうが小幅であろうが、上昇するといった見方をする者の構成比が同じであれば、同じDIが観測されることに注意が必要です。

(DIの算出例)
問: 国内の主食用米の“向こう3ヶ月の米価水準”について、“現時点と比較”してどうなると考えていますか。

	高くなる	やや高くなる	同程度	やや低くなる	低くなる
評価点(A)	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0
構成比(B)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI(C=A×B)	17.8	15	10	5.6	0
DI(合計)	48.4				

Ⅳ 主食用米以外（輸出を含む）

1 28年産米の作付状況

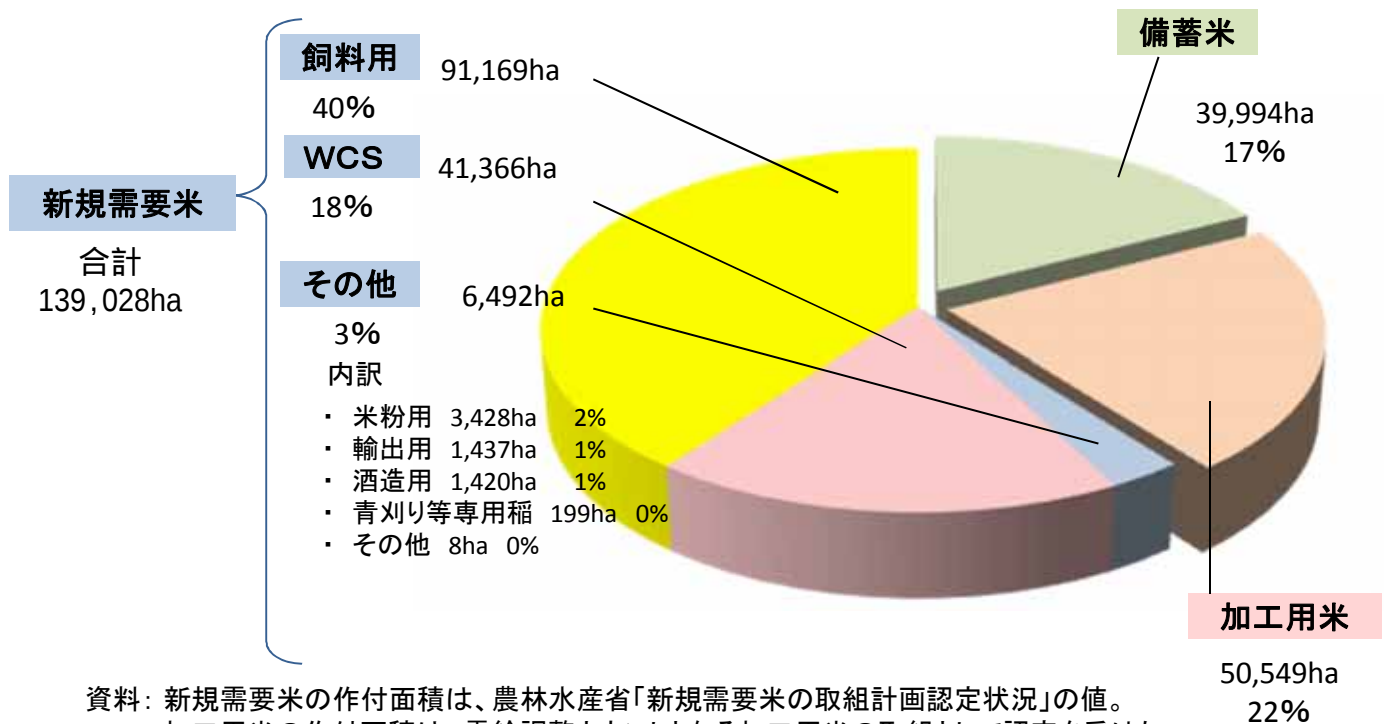
- 平成28年産米の作付面積は、主食用米が138.1万ha、主食用米以外が約23万ha。
- 主食用米以外の取組は、新規需要米13.9万ha、加工用米5.1万ha、備蓄米4.0万ha。

(1) 28年産米の用途別作付面積及び生産量

	計	主食用米	新規需要米	加工用米	備蓄米
作付面積（万ha）	161.1	138.1	13.9	5.1	4.0
生産量（万トン）		750	52	28	23

WCS、青刈り等専用稲は生産量に計上していない

(2) 主食用米以外の取組状況（作付面積及び作付面積比率）



資料：新規需要米の作付面積は、農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」の値。

加工用米の作付面積は、需給調整カウントとなる加工用米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

備蓄米作付面積は、都道府県農業再生協議会からの28年度報告値。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

(3) 新規需要米の用途別認定状況

	新規需要米(28年産)							
	合 計	飼料用	米粉用	輸出用	酒造用	稲発酵粗飼料稲	青刈り等専用稲	その他
作付面積 (ha)	139,028	91,169	3,428	1,437	1,420	41,366	199	8
計画生産量 (ト)	515,200	481,468	18,454	7,950	7,309			19

資料：農林水産省「新規需要米の取組計画認定状況」。

注1：需給調整カウントとなる新規需要米の取組として認定を受けた平成28年9月15日現在の値。

注2：「酒造用」は「需要に応じた米生産の推進に関する要領」に基づき生産数量目標の枠外で生産された玄米を指す。

注3：ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

2 加工用米及び新規需要米の取組状況概要

- ・ 清酒、米菓、米穀粉などの原料として使用される米穀の平成27米穀年度における使用量は対前年と同程度の約95万トン程度（推計）。
- ・ 種類別には、うるち米が約77万トン、もち米が約19万トン。制度別には、主食用米、加工用米及び特定米穀などの国産米が約8割。残りの約2割はMA米及び輸入米粉調製品の外国産米。
- ・ 加工用米の生産量及び特定米穀の流通量が増加し、国産原料米を調達しやすい環境にあったことから、味噌を中心に、外国産原料からの転換が進んだところ。

27米穀年度（平成26年11月～27年10月）における加工原材料用米穀の使用状況（推計）

＜うるち米＞		（単位：万トン）					
制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 （米粉用米）	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	うるち米計
清酒用	12 (9)	10		3			25 (9)
米菓用	1	2		7	2	1	13
加工米飯用 （無菌包装米飯除く）	5	5					10
味噌用		1		7	1		9
焼酎用 （泡盛含む）		1		5	2		8
米穀粉用		1	2	2	2	1	8
その他用	1			2	1		4
合計	18	22	2	24	9	2	77

＜もち米＞		（単位：万トン）					
制 度 用 途	主食用米	加工用米	新規需要米 （米粉用米）	特定米穀	MA米	輸入米粉調製品	もち米計
包装もち用	3	2				2	7
米菓用	2	1		1	1	2	6
米穀粉用	1					1	3
加工米飯用 （無菌包装米飯除く）	1						1
その他用						1	2
合計	7	4		1	1	6	19

注1： 清酒用の（ ）書きは、酒造好適米で内数。

2： 加工米飯用は、レトルト米飯用、冷凍米飯用などとして使用される原料米の使用量であり、無菌包装米飯用として使用される原料米約7万トンを含んでいない。

3： 焼酎は単式蒸留しうちゅう（穀類又はいも類、これらの麴等及び水を原料として発酵させたアルコール含有物を単式蒸留機により蒸留したアルコール度数が45度以下のもの（酒税法第3条第10号））であり、泡盛用として使用される原料米を含んでいる。

4： その他用には、玄米茶用、みりん用、朝食シリアル用などがある。

5： 特定米穀とは、水稻収穫量調査で使用するふるい目1.7mmと農家が出荷の際に使用する1.75～1.9mmの間の「ふるい下米」と、1.7mm未満の小さな粒の米（一般的に「くず米」と呼ばれているもの）の総称。

6： ラウンドの関係で合計と内訳が一致しない場合がある。

【推計根拠】

1 用途別の原料米使用量合計は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

清酒用・・・「清酒の製造状況等について」（国税庁）

焼酎用・・・「課税移出数量」（国税庁）、米菓用、米穀粉用、加工米飯用、味噌用、包装もち用

その他用・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量等

2 制度別の使用状況は、加工団体等からの聞き取りのほか、以下のデータにより推計。

主食用米・・・全国出荷団体等からの聞き取り。なお、酒造好適米は「農産物検査結果」（農林水産省）、

加工用米・・・「需要に応じた米生産の推進に関する要領」（農林水産省）に基づく報告

新規需要米（米粉用米）・・・「食品産業動態調査」（農林水産省）による生産量

MA米（SBS含む）・・・「販売実績」（農林水産省）

輸入米粉調製品・・・「貿易統計」（財務省）

特定米穀・・・1で推計した用途別原料米使用量から主食用米、加工用米、新規需要米（米粉用米）、MA米及び輸入米粉調製品を差し引いた数量

3 主食用米（生産数量目標の枠内）のうち加工原材料用向け販売数量 及び加工用米生産量の状況

- 全国の生産数量目標の枠内で生産された米穀のうち加工原材料用向けに販売された数量は、集出荷業者からの聞き取りによれば、約13万ト。
- また、加工用米の生産量は、約27万ト。

(単位:ト)

	26年産	
	主食用米（生産数量目標の枠内） のうち加工原材料用向け販売数量	加工用米の 生産量
北海道	33,900	19,454
青森県	400	9,885
岩手県	5,000	9,095
宮城県	7,800	5,142
秋田県	4,900	59,404
山形県	1,900	21,465
福島県	4,100	2,708
茨城県	300	10,578
栃木県	800	11,698
群馬県	30	6,153
埼玉県	2,300	1,025
千葉県	500	6,893
東京都		
神奈川県		
新潟県	21,600	36,242
富山県	1,500	6,471
石川県	2,000	4,569
福井県	200	4,057
山梨県	10	224
長野県	300	4,912
岐阜県	1,000	1,245
静岡県	300	676
愛知県	200	2,325
三重県	20	1,493
滋賀県	1,900	6,684
京都府	500	1,672
大阪府		
兵庫県	200	3,588
奈良県	200	1
和歌山県		
鳥取県		1,231
島根県	800	1,627
岡山県	2,400	2,884
広島県	2,900	1,644
山口県	600	3,411
徳島県	20	170
香川県	2,300	145
愛媛県	900	
高知県	400	191
福岡県	3,000	2,163
佐賀県	21,300	753
長崎県	200	62
熊本県	700	4,995
大分県	200	496
宮崎県		5,495
鹿児島県		3,443
沖縄県		
計	13万	27万

資料：農林水産省とりまとめ

注：「主食用米から加工原材料用向け」については、集出荷業者等が米加工業者に販売した生産数量目標の枠内で生産された米の数量であり、全国生産出荷団体、都道府県出荷団体、認定方針作成者等からの聞き取りによるもの（もち米を含み、酒造好適米を除く）。なお、集出荷業者等が米卸等に販売し、当該米卸が米加工業者に販売した数量は含まれない。

4 飼料用米の需要量

- 畜産側の平成29年産に係る飼料用米の需要量は、約120万トン。
 - ① 全農グループ飼料会社：年間約56万トン（米使用可能数量約82万トンのうちMA米・備蓄米含まない数量）
 - ② （協）日本飼料工業会組合員工場：年間約44万トン～61万トン（MA米・備蓄米を含まない数量）
 - ③ 全国酪農農業協同組合連合会の年間使用可能数量は、約1万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ④ 日本養鶏連の年間使用量は、約4万トン（MA米、備蓄米を含む数量）
 - ⑤ 畜産農家の新規需要量：76件、約2万トン（平成29年6月30日現在の報告分。追加情報は随時更新）
- 上記の地域別内訳、問い合わせ先は以下のとおり。

① 全農グループ飼料会社の飼料用米の使用可能数量（平成29年3月現在）

地区	年間使用可能数量 (千トン)	備 考
北海道	88	ホクレンくみあい飼料
東北	217	J A 全農北日本くみあい飼料
関東	146	J A 東日本くみあい飼料・科学飼料研究所
北陸	30	J A 東日本くみあい飼料
東海	46	〃
近畿・中国	46	J A 西日本くみあい飼料
四国	32	〃
北九州	49	ジェイエイ北九州くみあい飼料
南九州	162	南日本くみあい飼料・科学飼料研究所
合 計	817	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。
 ※実際の使用にあたっては、搬入方法等により制限される可能性がある。

※問い合わせ先：JA全農 耕種総合対策部飼料用米対策課 TEL: 03-6271-8279

② 日本飼料工業会組合員の工場の飼料用米需要量見込み（平成28年11月調査）

地 区	需要量 (千トン：単年度)	備 考
北海道	19～36	
東北	114～155	
関東	109～115	
中部	44～49	
関西	56～82	
九州	88～177	
合 計	436～608	

注1) 輸入トウモロコシ価格以下であることが前提、価格水準により需要量は変動する。

注2) 上記の需要量には、MA米、備蓄米は含まない。

注3) 四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※(協)日本飼料工業会は「飼料用米ダイヤル」を設置し、飼料用米を生産して売りたい産地の生産者や集荷業者、JA、飼料用米を使用したい傘下の全国の飼料メーカー（工場）との仲介を実施。

※問い合わせ先：「飼料用米ダイヤル」TEL: 03-3583-8031 E-mail: Esamai@jafma.or.jp

③ 全国酪農農業協同組合連合会の飼料用米の使用可能数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン)	備考
北海道	9.8	政府所有米穀(MA米)使用
東北	2.0	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
関東	1.2	政府所有米穀(備蓄米)と新規需要米併用
中部	0.4	新規需要米使用
関西	1.0	政府所有米穀(MA米)と新規需要米併用
九州	0.0	原料タンクの調整が必要
合 計	14.4	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：全国酪農農業協同組合連合会 購買部飼料製造課 TEL: 03-5931-8007

④ 日本養鶏連の飼料用米の使用可数量（平成29年2月現在）

地区	年間使用可能数量 もしくは需要量 (千トン：単年度)	備考
北海道	0.0	
東北	0.5	*粳米、不可
関東	1.5	
北陸	0.0	
東海	1.2	
近畿・中国	6.0	*粳米、不可
四国	0.0	
九州	26.0	*一部、粳米不可
合 計	35.2	

※使用可能数量は、MA米、備蓄米を含み、製造工程・能力から試算した数量。

※実際の使用にあたっては、搬入方法等によっては制限される可能性がある。

※輸入トウモロコシ価格以下であることが前提の需要量

※四捨五入の関係で計が一致しない場合がある。

※問い合わせ先：日本養鶏連 事業部 TEL: 03-5296-7041

⑤ 畜産農家の平成29年産飼料用米の新規需要量（平成29年6月30日現在）

都道府県	新規需要量		うち確保済み	
	件数	数量（トン）	件数	数量（トン）
北海道	1	未定		
宮城県	1	2,400		
岩手県	4	3,000	2	2,850
茨城県	2	40		
群馬県	4	113	1	1
埼玉県	1	40		
千葉県	6	2,103	0	227
山梨県	12	430		
長野県	8	1,307	7	757
静岡県	1	5		
愛知県	4	370	4	370
大阪府	3	14		
奈良県	5	1,610	2	380
広島県	1	1		
香川県	4	110		
福岡県	4	219		
長崎県	9	1		
大分県	2	2,100	0	60
宮崎県	2	2,425		
鹿児島県	2	2,000		
合計	76	18,288	16	4,645

※供給先が確保されていない新たな需要及びマッチング状況について、都道府県から報告のあった件数・数量を記載

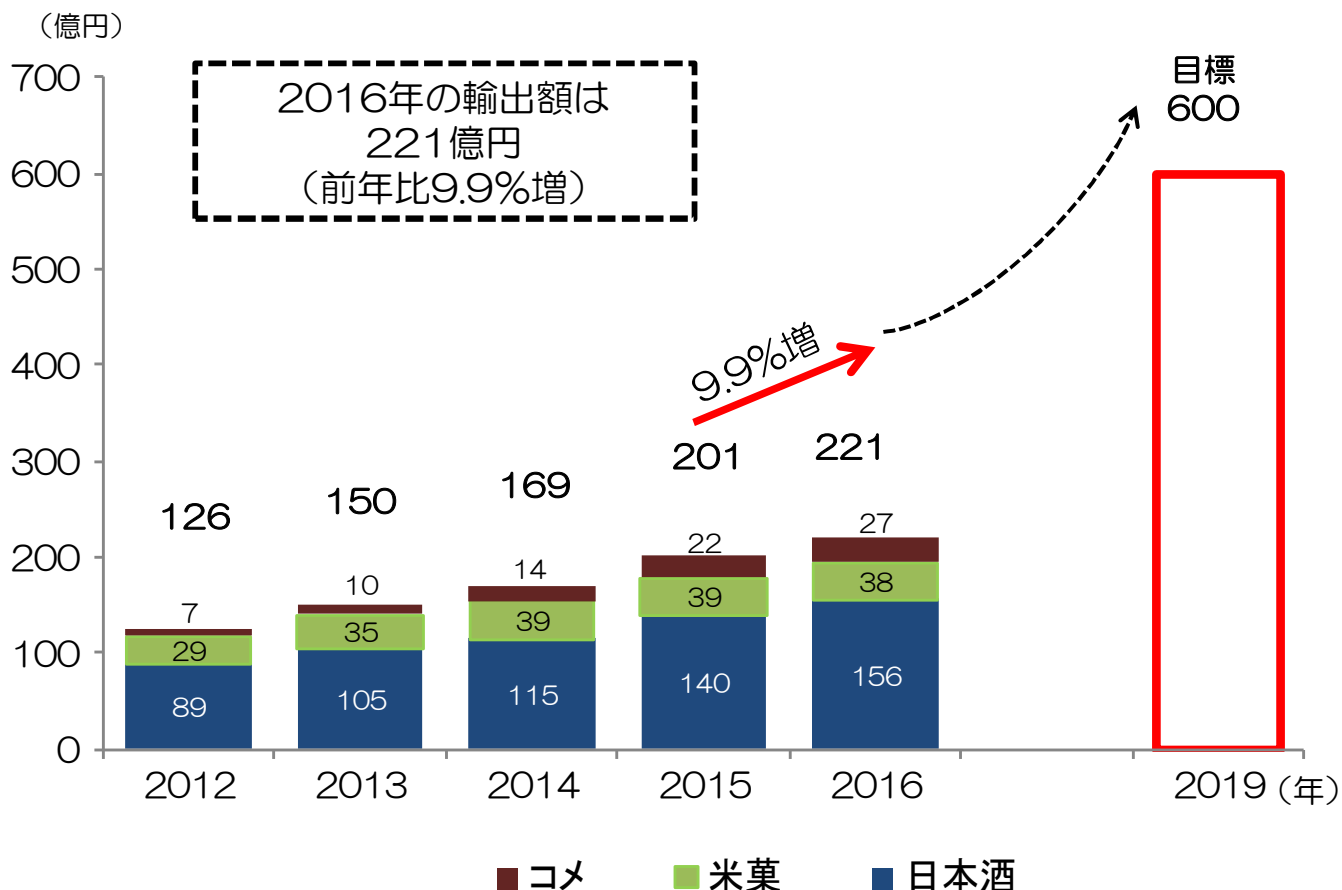
※一部確保済みの場合、件数0と記載

※問い合わせ先：生産局畜産部飼料課 TEL：03-3502-5993

5 コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額について

- 「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を2020年（平成32年）までに600億円とすることが決定。
- 2020年（平成32年）の輸出額1兆円目標について、「未来への投資を実現する経済対策」（平成28年8月決定）において、平成31年に1年前倒しすることとされ、オールジャパンでの輸出拡大を推進。
- 2016年の輸出額は、221億円（前年比9.9%増）。

コメ・コメ加工品の輸出状況



コメ・コメ加工品の輸出量及び輸出金額

	日本酒		米菓		コメ	
	数量 キロリットル	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円	数量 トン	金額 百万円
2012年	14,131	8,946	3,123	2,902	2,202	726
2013年	16,202	10,524	3,606	3,487	3,121	1,030
2014年	16,314	11,507	4,012	3,944	4,516	1,428
2015年	18,180	14,011	3,679	3,869	7,640	2,234
2016年	19,737	15,581	3,567	3,808	9,986	2,709

資料：財務省「貿易統計」（政府による食料援助を除く。）

注：数量1トン未満、金額20万円未満は計上されていない。

6 コメ・コメ加工品の輸出をめぐる状況と対応方向について

2020年に向けた輸出額目標

「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」（平成25年8月決定）の中で、コメ・コメ加工品の輸出額を、平成32年までに600億円とすることとしている。

輸出拡大に向けた対応方向

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、精米だけでなく、包装米飯・日本酒・米菓も含めたコメ加工品の輸出に力を入れることとしている。

【コメ（包装米飯含む）】

現地での精米の取組や炊飯ロボットと合わせた外食への販売など、日本米のプレゼンスを高める取組を推進。

重点国

新興市場：台湾、豪州、EU、ロシア、中国、米国等

安定市場：香港、シンガポール



【米菓】

相手国のニーズに合った商品の開発、手軽なスナックとしてのプロモーション強化。

重点国

新興市場：中東、中国、EU

安定市場：台湾、香港、シンガポール、米国



【日本酒】

発信力の高い都市や重点市場でのイベント・事業を実施するほか、セミナー等を通じて、日本酒の良さについて普及。日本酒の生産増に対応した酒造好適米の増産が可能となるよう措置。

重点国

新興市場：EU、台湾、中国、ブラジル、ロシア、韓国

安定市場：米国、香港



輸出拡大に向けた取組

コメ・コメ関連食品の輸出拡大のため、他の品目に先がけて、オールジャパンでコメ・コメ関連食品の輸出を促進する全国団体（全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会）を平成26年11月27日に立ち上げ、統一ロゴマークの開発・発表、海外でのPRイベント等を開催。

日本産米輸出の統一ロゴマーク



THIS IS
JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。



（注）QRコードから、日本産米のPR映像が流れるHPへリンク

V 支援事業等

(1) 水田活用の直接支払交付金

- 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米等の作物を生産する農業者に対して交付金を直接交付することにより、水田のフル活用を推進し、食料自給率・自給力を向上。

水田活用の直接支払交付金(1)

【平成29年度予算額:3,150(3,078)億円】

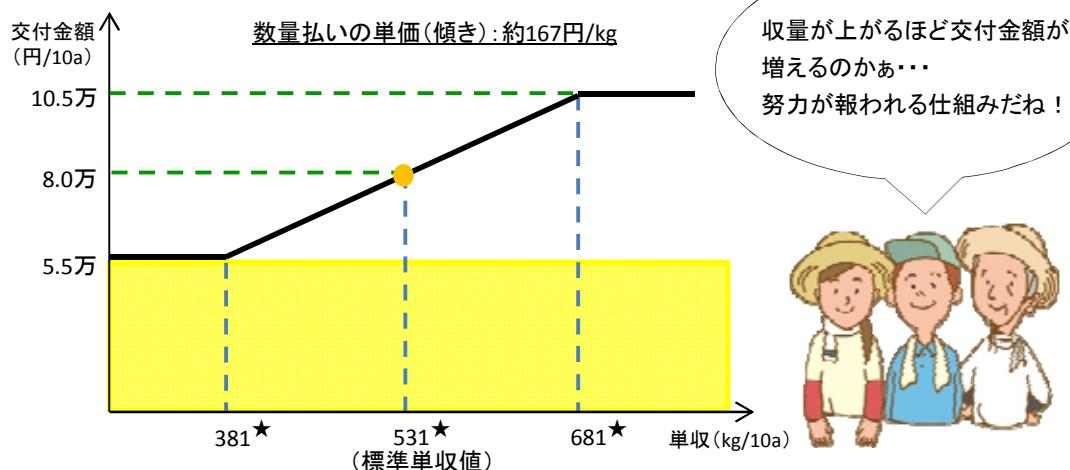
(1) 支援内容

① 戦略作物助成

対象作物	交付単価
麦、大豆、飼料作物※	35,000円/10a
WCS用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、 55,000円～105,000円/10a

※ 子実用とうもろこし(飼料用)を含む

<飼料用米、米粉用米の交付単価のイメージ>



- 数量払いによる助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
- ★は全国平均の平年単収(標準単収値)に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村等が当該地域に応じて定めている単収(配分単収)を適用します。なお、各地域における標準単収値を当年産の作柄(作柄表示地帯別)に応じて調整します。

<標準単収値の作柄調整の考え方>

$$\text{標準単収値} = \text{配分単収} \times \frac{\text{当年産のふるい目1.70mm以上の10アール当たり収量}}{\text{ふるい目1.70mm以上の10アール当たり平年収量}}$$

(小数点以下切り上げ)

水田活用の直接支払交付金(2)

② 産地交付金

基本的運用

- 地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づき、二毛作や耕畜連携を含め、産地づくりに向けた取組を支援します。
- 国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容(交付対象作物・取組・単価等)を設定できます。
- また、地域の取組に応じた追加配分(下表参照)を行います。

対象作物	取組内容	追加配分単価
飼料用米 米粉用米	多収品種への取組	12,000円/10a
加工用米	複数年契約(3年間)の取組 ※ 継続分のみ。	12,000円/10a
備蓄米	平成29年産政府備蓄米の買入 入札における落札 ※ 平成23年度に県別優先枠として配分した6万トンについては対象外。	7,500円/10a
そば なたね	作付の取組 ※ 基幹作のみ。	20,000円/10a

このほか、主食用米作付面積が生産数量目標の面積換算値を下回ることとなる都道府県に対して追加配分(5,000円/10a)します。

助成内容の設定

- 助成内容は以下のルールに即して設定します。

- ① 戦略作物助成の対象作物に対する助成については、生産性向上等の一定の取組に対する助成とすること
- ② 経営所得安定対策等における趣旨を損なうような助成としないこと
(例：品位の低いもののみへの加算)
- ③ 主食用米、輸出用米及び調整水田等の不作付地に対する助成は行わないこと

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(1)

- ・支払対象者数は45万7千件で、平成27年度の支払実績と比べて2万1千件減少。
- ・支払面積は、戦略作物全体では57万8千haと、平成27年度に比べて2万4千ha増加。
- ・作物別には、
 - (ア) 麦は、北海道、九州地方を中心に作付けがやや増加し、2千ha増の17万2千ha
 - (イ) 大豆は、北海道、東北、北陸地方及び熊本県で作付けが増加し、3千ha増の11万6千ha
 - (ウ) 飼料作物は、東北、九州地方を中心に作付けがやや増加、2千ha増の10万5千ha。
 - (エ) 新規需要米（WCS用稲、米粉用米、飼料用米）は、主食用米からの転換が全国的に進み、米粉用米を除いて作付けが増加、1万4千ha増の13万5千ha。
 - (オ) 加工用米は、4千ha増の5万ha。

(1) 水田活用の直接支払交付金の支払対象者数

	支払対象者数 (件)	個人	法人	集落営農
平成28年度	457,225	440,118	11,037	6,070
平成27年度	478,293	461,858	9,931	6,504
対前年度比較	▲ 21,068	▲ 21,740	+ 1,106	▲ 434

(2) 水田活用の直接支払交付金における戦略作物の支払面積

① 基幹作物＋二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)		
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね	備蓄米
平成28年度	172,305	115,734	104,943	135,371	41,106	3,501	90,764	49,981	578,334	35,551	792	39,333
平成27年度	170,590	113,016	103,234	121,533	37,860	4,206	79,467	46,157	554,529	34,125	585	43,771
対前年度比較	+ 1,715	+ 2,718	+ 1,709	+ 13,839	+ 3,246	▲ 705	+ 11,298	+ 3,824	+ 23,805	+ 1,426	+ 207	▲ 4,438

② 基幹作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	99,365	87,941	72,441	135,370	41,105	3,501	90,764	47,817	442,935	26,038	649
平成27年度	98,950	85,805	72,176	121,528	37,860	4,206	79,462	44,098	422,556	25,019	471
対前年度比較	+ 416	+ 2,136	+ 265	+ 13,843	+ 3,246	▲ 705	+ 11,302	+ 3,719	+ 20,379	+ 1,019	+ 178

③ 二毛作物

(単位:ha)

	麦	大豆	飼料作物	新規 需要米				加工用米	合計	(参考)	
					WCS用稲	米粉用米	飼料用米			そば	なたね
平成28年度	72,939	27,793	32,502	1	1	—	0	2,165	135,399	9,513	142
平成27年度	71,640	27,211	31,057	5	—	—	5	2,059	131,973	9,106	114
対前年度比較	+ 1,299	+ 582	+ 1,445	▲ 4	+ 1	—	▲ 5	+ 105	+ 3,427	+ 407	+ 29

水田活用の直接支払交付金の支払面積等(2)

- 平成26年度から導入した米粉用米及び飼料用米の数量払い分の対象面積、数量、平均単収については、
 - (ア) 米粉用米では、3千5百ha（7百ha減）、1万9千トン（4千トン減）542kg/10a。
 - (イ) 飼料用米では、8万9千ha（1万1千ha増）、49万6千トン（6万4千トン増）、558kg/10a。

(3) 米粉用米、飼料用米(数量払い分)の支払面積、支払数量、平均単収

	米粉用米			飼料用米		
	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)	面積(ha)	数量(t)	単収(kg/10a)
平成28年度	3,487	18,896	542	88,900	496,017	558
平成27年度	4,180	22,519	539	77,731	431,696	555
対前年度比較	▲ 693	▲ 3,623	+ 3	+ 11,168	+ 64,321	+ 3

注) 飼料用米等の数量払いは平成26年度から実施している。面積は、数量払いで交付した面積であるため、前記戦略作物の支払面積と異なっている。数量は、農産物検査機関による数量確認を受けた数量、単収は上記「数量」/「面積」により算定。
数量払いの実績には、農産物検査を受けていない取組及び飼料用米を生もみで出荷又は利用する取組の面積及び数量は含まない。

(4) 耕畜連携助成の支払面積

(単位: ha)

	飼料用米 のわら 利用	水田放牧	資源循環 の取組	合計
平成28年度	23,055	1,298	28,208	52,560
平成27年度	19,866	1,299	25,636	46,800
対前年度比較	+ 3,189	▲ 1	+ 2,572	+ 5,760

米の直接支払交付金の支払面積等

- 支払対象者数は77万8千件で、平成27年度に比べて4万2千件減少。
- 支払面積は94万4千ha（10a控除前：102万6千ha）で、平成27年度に比べて9千ha減少。

(5) 米の直接支払交付金の支払対象者数、支払面積

	支払対象者数 (件)				支払面積 (ha)	(参考)
		個人	法人	集落営農		支払面積 10a控除前 (ha)
平成28年度	778,026	765,175	8,651	4,200	943,757	1,026,079
平成27年度	820,373	808,023	7,806	4,544	953,064	1,039,251
対前年度比較	▲ 42,347	▲ 42,848	+ 845	▲ 344	▲ 9,307	▲ 13,172

(2) 畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

- 諸外国との生産条件の格差により不利がある国産農産物（麦、大豆等）について、引き続き生産コストと販売額の差に相当する額を直接交付。

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）

【平成29年度予算額： 1,950(1,948)億円】

(1) 支援内容（数量払）

① 麦類

品質区分 (等級/ランク)	1等				2等			
	A	B	C	D	A	B	C	D
小麦 (ハル・中華麺用品種:60kg当たり)	8,990円	8,490円	8,340円	8,280円	7,830円	7,330円	7,180円	7,120円
小麦 (上記品種以外:60kg当たり)	6,690円	6,190円	6,040円	5,980円	5,530円	5,030円	4,880円	4,820円
二条大麦 (50kg当たり)	5,520円	5,100円	4,980円	4,930円	4,660円	4,240円	4,110円	4,060円
六条大麦 (50kg当たり)	6,000円	5,580円	5,450円	5,400円	4,970円	4,550円	4,430円	4,380円
はだか麦 (60kg当たり)	8,610円	8,110円	7,960円	7,870円	7,040円	6,540円	6,390円	6,310円

等級:被害粒の割合や粒揃いの違いで区分。A～Dランク:たんばく質の含有率等の違いで区分

② 大豆

品質区分(等級)	1等	2等	3等
普通大豆(60kg当たり)	9,940円	9,250円	8,570円
特定加工用大豆(60kg当たり)	7,890円		

特定加工用:豆腐・油揚げ、しょうゆ、きなこ等製品の段階において、大豆の原形をとどめない用途に使用する大豆

③ そば

品質区分(等級)	1等	2等
45kg当たり	17,470円	15,360円

等級:容積重の違いや被害粒の割合で区分

④ なたね

品質区分(品種)	キザキノナタネ キラリボシ ナナシキブ	その他の 品種
60kg当たり	9,940円	9,200円

⑤ てん菜

品質区分(糖度)	← (+0.1度)	16.3度	→ (▲0.1度)
1t当たり	+ 62円	7,180円	▲ 62円

糖度:てん菜の重量に対するショ糖の含有量

⑥ でん粉原料用ばれいしょ

品質区分 (でん粉含有率)	← (+0.1%)	19.5%	→ (▲0.1%)
1t当たり	+ 64円	11,610円	▲ 64円

でん粉含有率:ばれいしょの重量に対するでん粉の含有量

(2) 支援内容（面積払（営農継続支払））

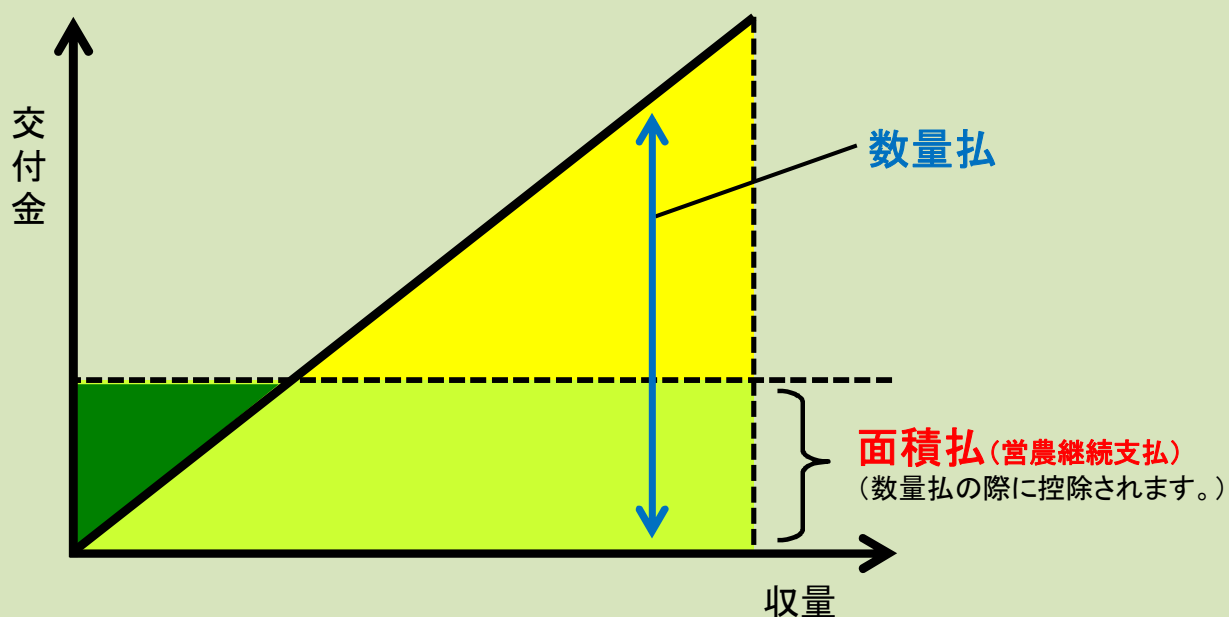
① 交付対象面積

当年産の作付面積に応じて交付

② 交付単価

10a当たり2万円
※「そば」は、10aあたり1万3千円

③ 数量払と面積払（営農継続支払）の関係



交付対象者

※ 交付対象者に変更ありません。

認定農業者、集落営農、認定新規就農者
(いずれも規模要件は課しません。)

対象作物

麦、大豆、そば、なたね
てん菜、でん粉原料用ばれいしょ(北海道産のみ)
(ビール用麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象外)

(3) 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）

米・畑作物の収入減少影響緩和対策(ナラシ対策)

【平成29年度予算額:746(753)億円(所要額)】

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）は、農家拠出を伴う経営に着目したセーフティーネットであり、米及び畑作物の農業収入全体の減少による影響を緩和するための保険的制度です。

(1) 交付対象者

支援の対象となる農業者は、認定農業者、集落営農、認定新規就農者です（いずれも規模要件はありません）。

※ 集落営農の要件は、2要件（組織の規約の作成、対象作物の共同販売経理の実施）に緩和し、「農業経営の法人化」及び「地域における農地利用の集積」については、市町村が確実に実行されると判断するものとします。

(2) 対象農産物

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原料用ばれいしょです。

※1 ビール麦、黒大豆、種子用として生産されるものなどは対象となりません。

※2 てん菜、でん粉原料用ばれいしょは、北海道で生産されるものが対象です。

【10a当たり標準的収入額とは】

通常年に想定される収入額として、前年産以前5カ年の収入額のうち、最高年と最低年を除いた3カ年の平均収入額で、品目ごと、地域ごとに計算しています。各年産の収入額は、米であれば、地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、地域の実単収を乗じて算出します。

【10a当たり当年産収入額とは】

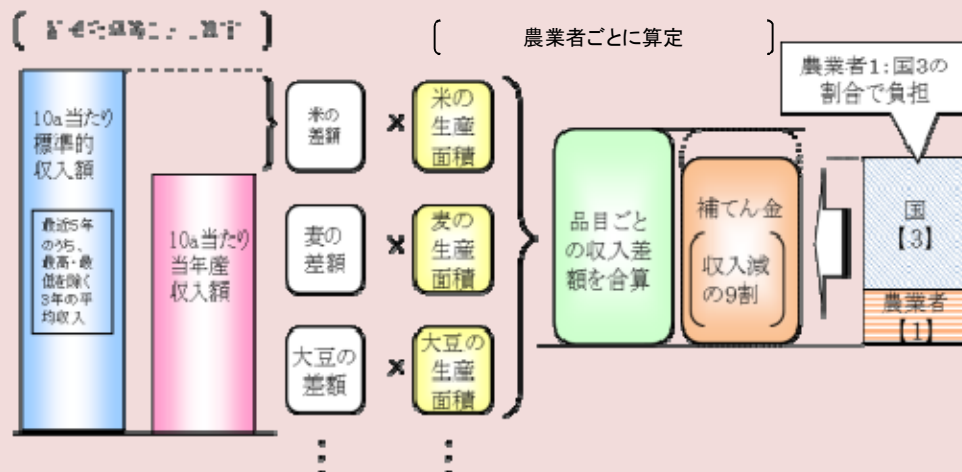
当年産の収入額として、品目ごと、地域ごとに計算しています。当年産の収入額は、米であれば、当年産の地域の産地品種銘柄のうち、数量の多い上位3銘柄平均販売価格に、当年産の地域の実単収を乗じて算出します。

(3) ナラシ対策の仕組み

- 農業者の米、麦、大豆等の当年産の販売収入の合計（当年産収入額）が、標準的収入額を下回った場合に、その差額の9割を補てんします。

$$\text{補てん額} = (\text{標準的収入額} - \text{当年産収入額}) \times 0.9$$

- 補てんの財源は、農業者と国が1対3の割合で負担します。
- このため、補てんを受けるには、農業者からの積立金の拠出が必要となります。
- 補てん後の積立金の残額は、翌年産へ繰り越されるため、掛け捨てとはなりません。



(参考) 平成27年産ナラシ対策の支払い実績 (平成28年8月31日現在)

全 国 都 道 府 県		加入件数 (件)	支払件数 (件)	補てん総額 (億円)	(参考1) ※ 米の10a当たり 補てん単価 (円/10a)	(参考2) ※ 米加入面積10haの 場合の補てん額の推計 (万円)
全 国		108,733	93,891	332.33	9,418	94
北 海 道		19,968	8,872	29.14	4,283	42
東 北	青 森 県	5,283	4,993	9.89	6,995	69
	岩 手 県	3,381	3,175	8.20	5,086	50
	宮 城 県	4,340	4,229	19.98	7,931	79
	秋 田 県	8,746	8,441	19.52	5,943	59
	山 形 県	7,698	7,451	7.86	2,893	28
	福 島 県	4,779	4,642	17.42	12,005	120
関 東	茨 城 県	3,263	3,074	14.42	17,913	179
	栃 木 県	5,141	4,989	20.47	13,354	133
	群 馬 県	958	931	1.79	2,502	25
	埼 玉 県	1,265	1,188	2.62	10,642	106
	千 葉 県	1,082	1,050	5.63	16,495	164
	東 京 都	4	3	0.00	8,568	85
	神 奈 川 県	125	121	0.14	10,647	106
	山 梨 県	137	123	0.28	11,545	115
	長 野 県	1,412	1,344	10.01	15,093	150
	静 岡 県	338	328	2.71	12,411	124
北 陸	新 潟 県	12,617	12,440	53.45	11,598	115
	富 山 県	1,509	1,320	6.08	5,788	57
	石 川 県	1,776	1,719	10.03	10,702	107
	福 井 県	1,172	1,094	6.78	9,079	90
東 海	岐 阜 県	681	654	4.26	9,270	92
	愛 知 県	641	608	6.57	9,900	99
	三 重 県	933	913	6.00	10,133	101
近 畿	滋 賀 県	2,406	2,363	13.19	12,606	126
	京 都 府	334	306	0.88	9,878	98
	大 阪 府	29	25	0.01	9,081	90
	兵 庫 県	1,095	916	1.45	7,844	78
	奈 良 県	91	85	0.14	14,604	146
	和 歌 山 県	77	68	0.04	8,207	82
中 国 ・ 四 国	鳥 取 県	435	391	1.95	12,343	123
	島 根 県	749	734	4.83	11,895	118
	岡 山 県	903	865	3.34	15,352	153
	広 島 県	545	516	3.82	10,839	108
	山 口 県	845	817	2.84	7,483	74
	徳 島 県	231	208	0.40	13,037	130
	香 川 県	563	540	3.18	13,662	136
	愛 媛 県	644	615	2.29	15,634	156
	高 知 県	283	270	0.48	11,126	111
九 州	福 岡 県	1,995	1,924	9.15	6,103	61
	佐 賀 県	1,613	1,554	7.26	5,236	52
	長 崎 県	862	772	0.51	3,795	37
	熊 本 県	3,569	3,350	6.53	6,843	68
	大 分 県	1,410	1,306	2.74	10,157	101
	宮 崎 県	1,791	1,601	2.27	14,072	140
	鹿 児 島 県	919	873	1.74	6,962	69
沖 縄 県		95	90	0.05	2,052	20

(注1) 加入件数は、平成27年7月31日時点の積立金納付者の件数である。

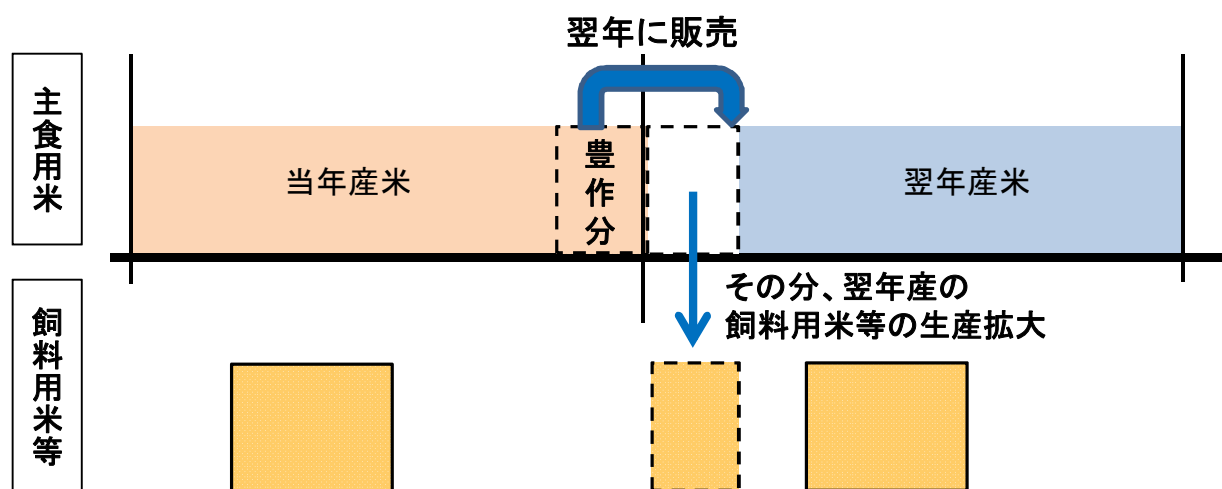
(注2) ラウンドの関係で合計数値は一致しない場合がある。

※ 米の10a当たり補てん単価及び米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、20%コースの場合。米のみで試算したものであり、実際の支払では、麦・大豆等との合算相殺がある。また、(参考2)の米加入面積10haの場合の補てん額の推計は、表記上、1万円未満は切り捨てている。

(4) 主食用米の需給安定の考え方、米穀周年供給・需要拡大支援事業

① 主食用米の需給安定の考え方

- 「需要に応じた生産を行ってもなお、気象の影響等により、必要な場合」に主食用米を長期計画的に販売する取組や、輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施するための支援措置として、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」を実施。（米穀周年供給・需要拡大支援事業：29年度予算額50億円（対前年同額））
- 平成30年産に向けては、必要がある場合に、この支援措置を活用して、豊作分を翌年に回し、その分、水田活用の直接支払交付金を活用して、翌年産の飼料用米等の生産を拡大して、主食用米の供給を絞るといった取組を定着させ、主食用米の需給の安定を図っていくことが重要。
（水田活用の直接支払交付金：29年度予算額 3,322億円（対前年+245億円））



② 米穀周年供給・需要拡大支援事業のスキーム

- 業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催に対して支援。
- 産地の自主的な取組により、需要に応じた生産・販売が行われる環境整備を図る観点から、気象の影響等により必要が生じた場合には、産地の判断により、主食用米を長期計画的に販売する取組や輸出用など他用途への販売を行う取組等を自主的に実施する体制を構築していくことが必要。
- あらかじめ生産者等が積立てを行い、産地の取組を実施する場合に国も一定の支援。

全国事業

業務用等の取引に関するマッチングセミナー・イベントの開催支援（定額）

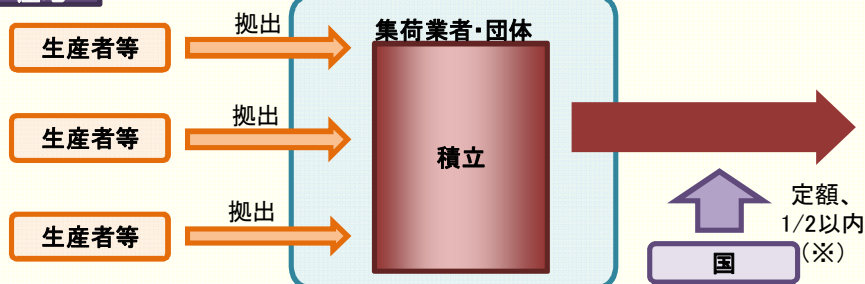
民間団体が行う業務用米の生産・流通の拡大に向けたセミナー、展示商談会を支援。
→ 生産者と実需者の連携（マッチング）促進による安定供給の拡大

〔業務用米取引セミナー〕

〔展示商談会〕



産地



産地自らの自主的な取組

- 主食用米の
- ① 周年安定供給のための長期計画的な販売
 - ② 輸出用向けの販売促進等
 - ③ 業務用向け等の販売促進等
 - ④ 非主食用への販売
- (※) 値引きや価格差補てんのための費用は支援の対象外。

また、取引参加者の利便性を向上させるため、現物市場が共同でシステムの開発・導入を行う場合等に支援。

③ 米穀周年供給・需要拡大支援事業活用状況

米穀周年供給・需要拡大支援事業の各産地の活用状況は、

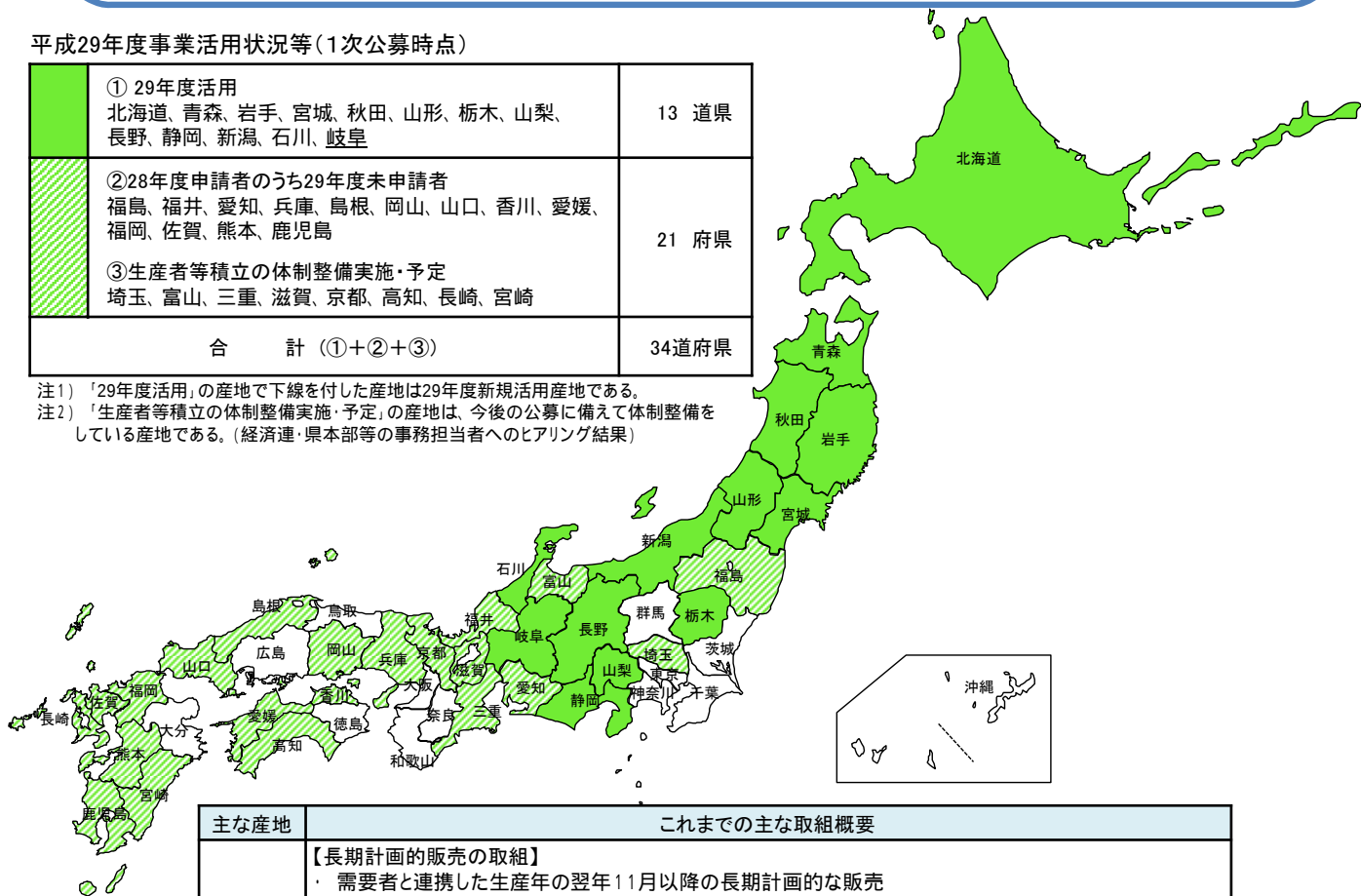
- ・ 平成27年度では17道県（18事業者）、平成28年度では25道県（27事業者）が活用。
- ・ 平成29年度は1次公募において13道県（15事業者）が活用。現在、追加公募の審査中であり、出来秋の需給対策として、今後とも本事業を継続・推進。

平成29年度事業活用状況等（1次公募時点）

① 29年度活用 北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、栃木、山梨、 長野、静岡、新潟、石川、岐阜	13 道県
②28年度申請者のうち29年度未申請者 福島、福井、愛知、兵庫、島根、岡山、山口、香川、愛媛、 福岡、佐賀、熊本、鹿児島	21 府県
③生産者等積立の体制整備実施・予定 埼玉、富山、三重、滋賀、京都、高知、長崎、宮崎	
合 計（①+②+③）	34道府県

注1) 「29年度活用」の産地で下線を付した産地は29年度新規活用産地である。

注2) 「生産者等積立の体制整備実施・予定」の産地は、今後の公募に備えて体制整備をしている産地である。（経済連・県本部等の事務担当者へのヒアリング結果）



主な産地	これまでの主な取組概要
北海道	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外向け北海道米PRパンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャクター（マツコ・デラックス）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「ゆめぴりか」のPR ・ 認知度向上に向けた情報収集、データ分析による販路拡大手法の検討
秋田	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャクター（小芝 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「あきたこまち」のPR ・ 食味分析データを用いた販売促進パンフレットの作成配布 ・ 外食事業者等が参加する各種商談会での試食等の実施
山形	【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 海外百貨店等での「つや姫」、「はえぬき」PRキャンペーンの開催 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ キャクター（V6 長野 博）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「はえぬき」のPR ・ 販路拡大に向けたコンサルティング活動
栃木	【長期計画的な販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 地元出身書道家（涼 風花）を用いた各種メディア及びイベントを活用した「とちほのか」のPR ・ 公共交通機関のラッピングバス等を活用したPR
石川	【長期計画的販売の取組】 ・ 需要者と連携した生産年の翌年11月以降の長期計画的な販売 【輸出向けへの販売促進等の取組】 ・ 現地市場等調査による実需者ニーズの把握や石川県産米パンフレットの作成配布 【業務用向け等への販売促進等の取組】 ・ 各種メディアを活用した石川県産米のPR ・ 毎月2日を「おにぎりの日」に制定し、これを起点にした試食イベント等の開催

VI 消費動向

(1) 米の消費動向（米穀機構による調査）

○ 本調査は、調査実施機関（(株)マクロミル）のモニターの中から、本調査への協力の意向を示した消費世帯を対象としている（インターネット調査）。

- 米穀機構が公表している「米の消費動向」（平成29年6月）によると、1人1ヵ月当たりの精米消費量は、前年同月との比較で▲0.1%。
- このうち、家庭内での消費量は前年同月との比較で+3.6%、中・外食は同▲7.7%。

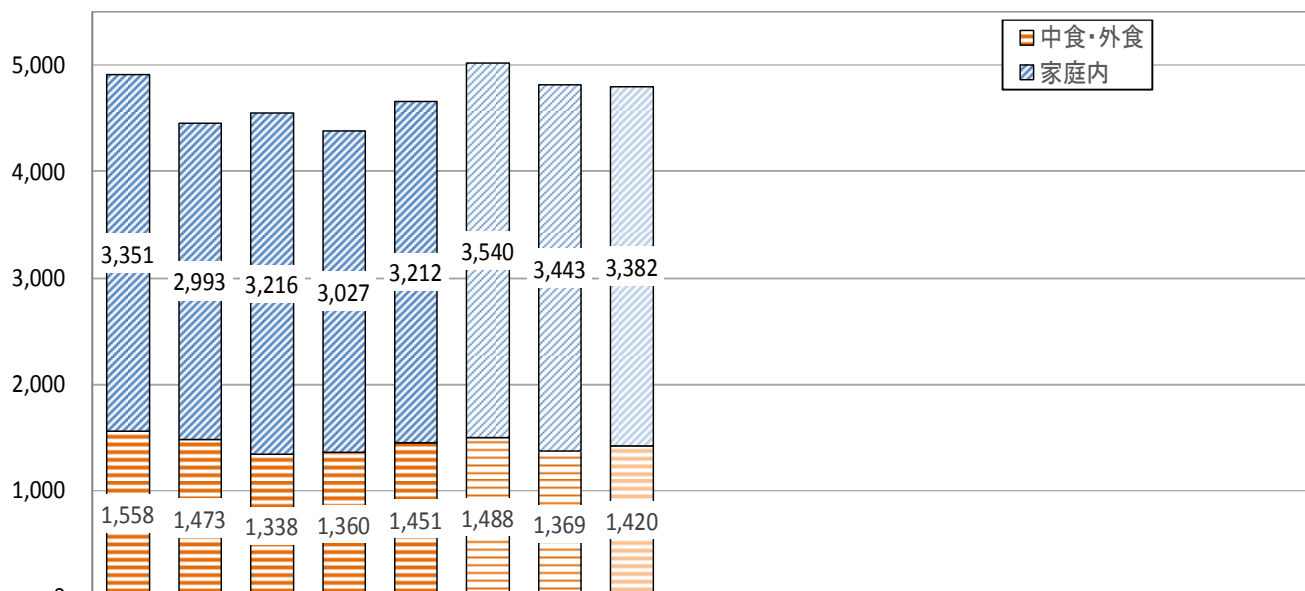
① 1人1ヵ月当たり精米消費量の推移

（精米g／人、%）

		精米消費量					内訳(比率)					前年同月比(比率)				
		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食		合計	家庭内		中・外食	
					中食	外食				中食	外食				中食	外食
24年度	-	4,909	3,351	1,558	900	658	100.0	68.3	31.7	18.3	13.4	1.4	4.4	▲ 4.4	▲ 3.1	▲ 6.1
25年度	-	4,466	2,993	1,473	846	627	100.0	67.0	33.0	18.9	14.0	▲ 9.0	▲ 10.7	▲ 5.5	▲ 6.0	▲ 4.7
26年度	-	4,554	3,216	1,338	758	580	100.0	70.6	29.4	16.6	12.7	2.0	7.5	▲ 9.2	▲ 10.4	▲ 7.5
27年度	-	4,386	3,027	1,360	793	567	100.0	69.0	31.0	18.1	12.9	▲ 3.7	▲ 5.9	1.6	4.6	▲ 2.2
28年度	-	4,663	3,212	1,451	852	599	100.0	68.9	31.1	18.3	12.8	6.3	6.1	6.7	7.4	5.6
29年度	4月	5,028	3,540	1,488	908	580	100.0	70.4	29.6	18.1	11.5	0.5	3.4	▲ 5.9	▲ 4.2	▲ 8.4
	5月	4,812	3,443	1,369	833	536	100.0	71.6	28.4	17.3	11.1	▲ 1.2	3.0	▲ 10.1	▲ 9.0	▲ 11.8
	6月	4,802	3,382	1,420	871	549	100.0	70.4	29.6	18.1	11.4	▲ 0.1	3.6	▲ 7.7	▲ 5.3	▲ 11.2

1人1ヵ月当たり精米消費量の推移(グラフ)

（精米g／人）



24年度 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度

(平均) (平均) (平均) (平均) (平均) 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

出典： 米穀安定供給確保支援機構「米の消費動向調査結果」

注： 1 平成29年6月分の有効調査世帯数は1,835世帯。

2 調査対象世帯の入れ替えや補充による調査結果の補正は行っていないため、調査結果の経年比較等の際には、留意が必要である。

3 家庭内消費量については、調査当月の月初と月末の精米在庫量及び精米購入数量から把握、中食・外食の消費量については、調査当月の家庭炊飯以外で食べた米飯の数量から推計。

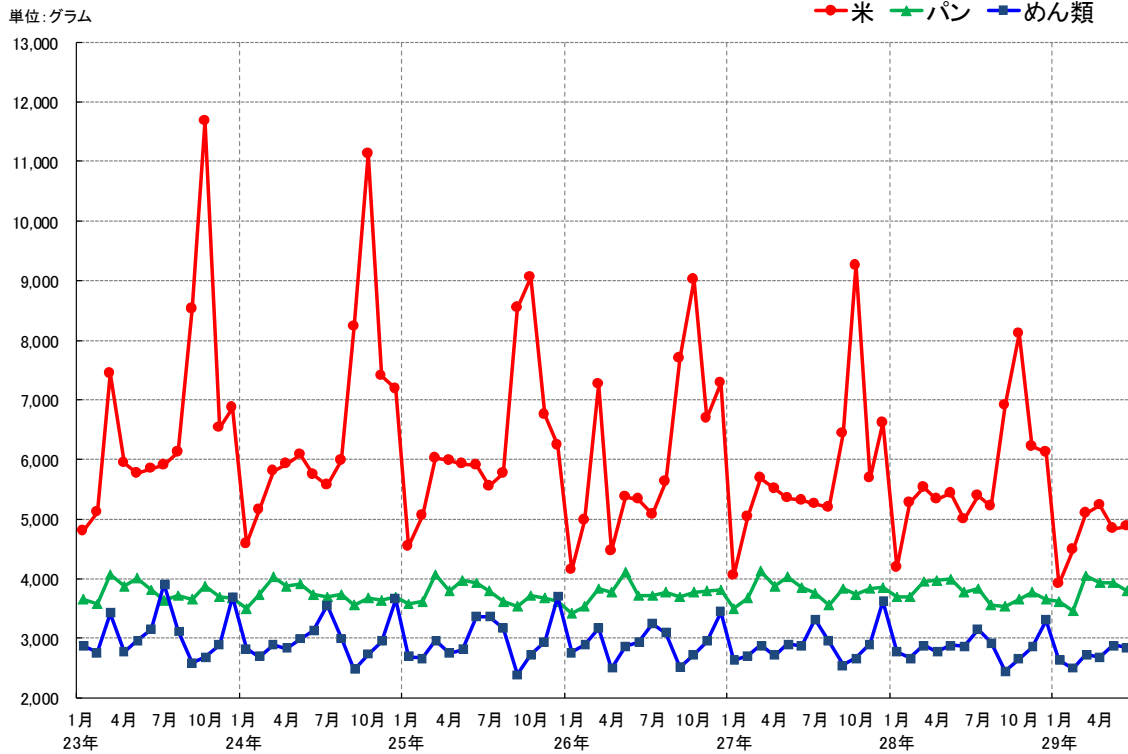
4 集計に際しては、地域毎に世帯人員構成比が平成22年国勢調査「世帯人員構成比」に沿うよう調整した上で推計。

5 四捨五入の関係で合計と内訳が合わない場合がある。

(2) 購入数量の推移（家計調査）

- 総務省が公表している家計調査によると、平成29年6月の米の購入数量は、前年同月との比較で▲2.4%の4.9kg、パンについては+0.6%の3.8kg、めん類については▲0.5%の2.8kg。

1世帯当たり購入数量の推移



(表) 1世帯当たり購入数量の推移

(単位：グラム)

	米		パン		めん類	
	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比	購入数量	対前年 (同月)比
平成20年	88,550	103.8%	44,445	98.2%	35,899	101.2%
平成21年	85,110	96.1%	45,599	102.6%	36,615	102.0%
平成22年	83,010	97.5%	45,443	99.7%	37,000	101.1%
平成23年	80,580	97.1%	45,255	99.6%	36,931	99.8%
平成24年	78,780	97.8%	44,808	99.0%	35,819	97.0%
平成25年	75,170	95.4%	44,927	100.3%	35,560	99.3%
平成26年	73,050	97.2%	44,926	100.0%	35,176	98.9%
平成27年	69,510	95.2%	45,676	101.7%	34,753	98.8%
平成28年	68,740	98.9%	45,099	98.7%	34,192	98.4%
平成29年1月	3,920	93.8%	3,607	97.7%	2,637	95.2%
2月	4,480	84.8%	3,457	93.6%	2,496	93.8%
3月	5,090	92.2%	4,056	102.4%	2,725	94.4%
4月	5,230	97.9%	3,929	98.8%	2,685	96.7%
5月	4,840	89.1%	3,925	98.3%	2,882	99.9%
6月	4,880	97.6%	3,790	100.6%	2,846	99.5%

資料：総務省「家計調査」

注：1 二人以上の世帯の数値である。

2 平成20年から平成28年については、年間の購入数量を示す。

3 米は精米ベースである。

- ・ 総務省が公表している消費者物価指数によると、平成29年6月の米類の指数は、先月との比較では▲0.4の107.4ポイント。
- ・ なお、前年同月との比較では+4.6ポイント。

消費者物価指数の推移

120.0
115.0
110.0
105.0
100.0
95.0
90.0

1 5 9 1 5 9 1 5 9 1 5 9 1 5 9 1 5 9 1 5

23年 24年 25年 26年 27年 28年 29年

107.4 ← 米類
102.9 ← 穀類※
102.0 ← 食料※
101.7 ← パン
100.0 ← めん類

(月)

(平成27年=100、指数)

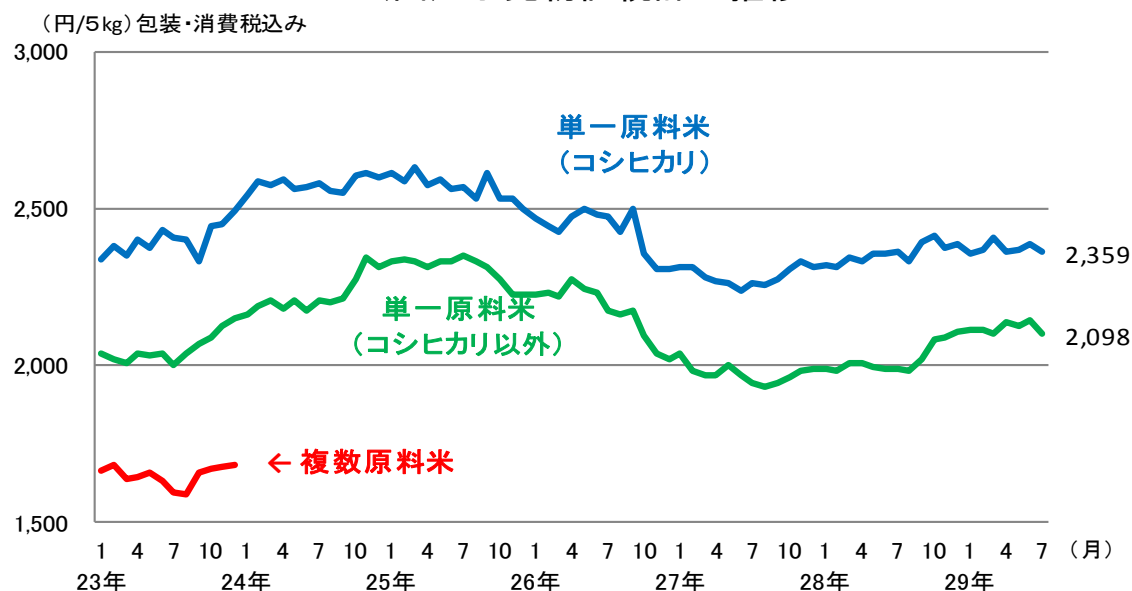
	食料		穀類		米類		うるち米		パン		めん類	
		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比		対前年 (同月)比
平成20年	93.9	2.6%	102.9	6.4%	110.7	▲1.3%	111.4	▲1.3%	99.8	12.6%	97.2	11.7%
平成21年	94.1	0.2%	103.7	0.8%	111.1	0.4%	111.6	0.2%	100.1	0.3%	98.8	1.7%
平成22年	93.9	▲0.3%	100.4	▲3.2%	107.2	▲3.5%	107.7	▲3.5%	96.2	▲3.9%	97.0	▲1.9%
平成23年	93.5	▲0.4%	98.8	▲1.6%	103.0	▲4.0%	103.4	▲4.0%	96.4	0.2%	96.2	▲0.8%
平成24年	93.6	0.1%	101.7	3.0%	112.4	9.2%	113.3	9.6%	96.3	▲0.1%	95.8	▲0.4%
平成25年	93.4	▲0.1%	101.2	▲0.5%	114.6	2.0%	115.7	2.1%	94.4	▲1.9%	94.2	▲1.7%
平成26年	97.0	3.8%	100.8	▲0.4%	107.4	▲6.3%	107.9	▲6.8%	97.8	3.6%	96.6	2.6%
平成27年	100.0	3.1%	100.0	▲0.8%	100.0	▲6.9%	100.0	▲7.3%	100.0	2.2%	100.0	3.5%
平成28年	101.7	1.7%	101.7	1.7%	103.8	3.8%	104.0	4.0%	101.2	1.2%	100.3	0.3%
平成29年1月	102.7	1.8%	102.9	1.5%	107.6	4.9%	108.0	5.2%	101.9	0.5%	99.9	▲1.1%
2月	102.2	0.8%	102.7	1.4%	107.3	4.5%	107.6	4.7%	101.4	0.5%	99.8	▲0.8%
3月	101.9	0.5%	102.8	1.3%	107.7	4.9%	108.1	5.1%	101.4	0.6%	99.5	▲1.3%
4月	102.1	0.9%	102.7	1.3%	107.4	4.4%	107.7	4.7%	101.4	0.7%	99.7	▲1.0%
5月	102.0	0.8%	102.9	1.4%	107.8	5.0%	108.1	5.3%	101.4	0.1%	99.6	▲0.4%
6月	102.0	0.8%	102.9	1.7%	107.4	4.6%	107.7	4.9%	101.7	0.9%	100.0	▲0.1%

- 52 -

(4) 小売物価統計の推移

- ・ 総務省が公表している小売物価統計によると、平成29年7月のうるち米の小売価格（5kg当たり）は、単一原料米（コシヒカリ）で、前年同月と同水準の2,359円。
- ・ 単一原料米（コシヒカリ以外）は、前年同月より+5.4%の2,098円。

(図) 小売物価統計の推移



注：図中の数値は、平成29年7月の価格となる。

(表) 小売物価統計の推移

(単位：円/5kg)

	うるち米				
	単一原料米 (コシヒカリ)	対前年 (同月)比	単一原料米 (コシヒカリ以外)	対前年 (同月)比	複数原料米
平成20年	2,610	▲2.2%	2,270	▲0.8%	1,832
平成21年	2,531	▲3.0%	2,201	▲3.0%	1,812
平成22年	2,462	▲2.7%	2,136	▲3.0%	1,739
平成23年	2,399	▲2.5%	2,053	▲3.9%	1,649
平成24年	2,577	7.4%	2,223	8.3%	—
平成25年	2,567	▲0.4%	2,307	3.8%	—
平成26年	2,428	▲5.4%	2,173	▲5.8%	—
平成27年	2,285	▲5.9%	1,973	▲9.2%	—
平成28年	2,355	3.1%	2,019	2.3%	—
平成29年1月	2,355	1.6%	2,111	6.1%	—
2月	2,370	2.6%	2,112	6.7%	—
3月	2,406	2.7%	2,100	4.6%	—
4月	2,362	1.4%	2,137	6.6%	—
5月	2,371	0.6%	2,124	6.5%	—
6月	2,385	1.2%	2,143	8.0%	—
7月	2,359	0.0%	2,098	5.4%	—

資料：総務省「小売物価統計」

注1：東京都区部の数値である。

2：特売を除いた価格である。

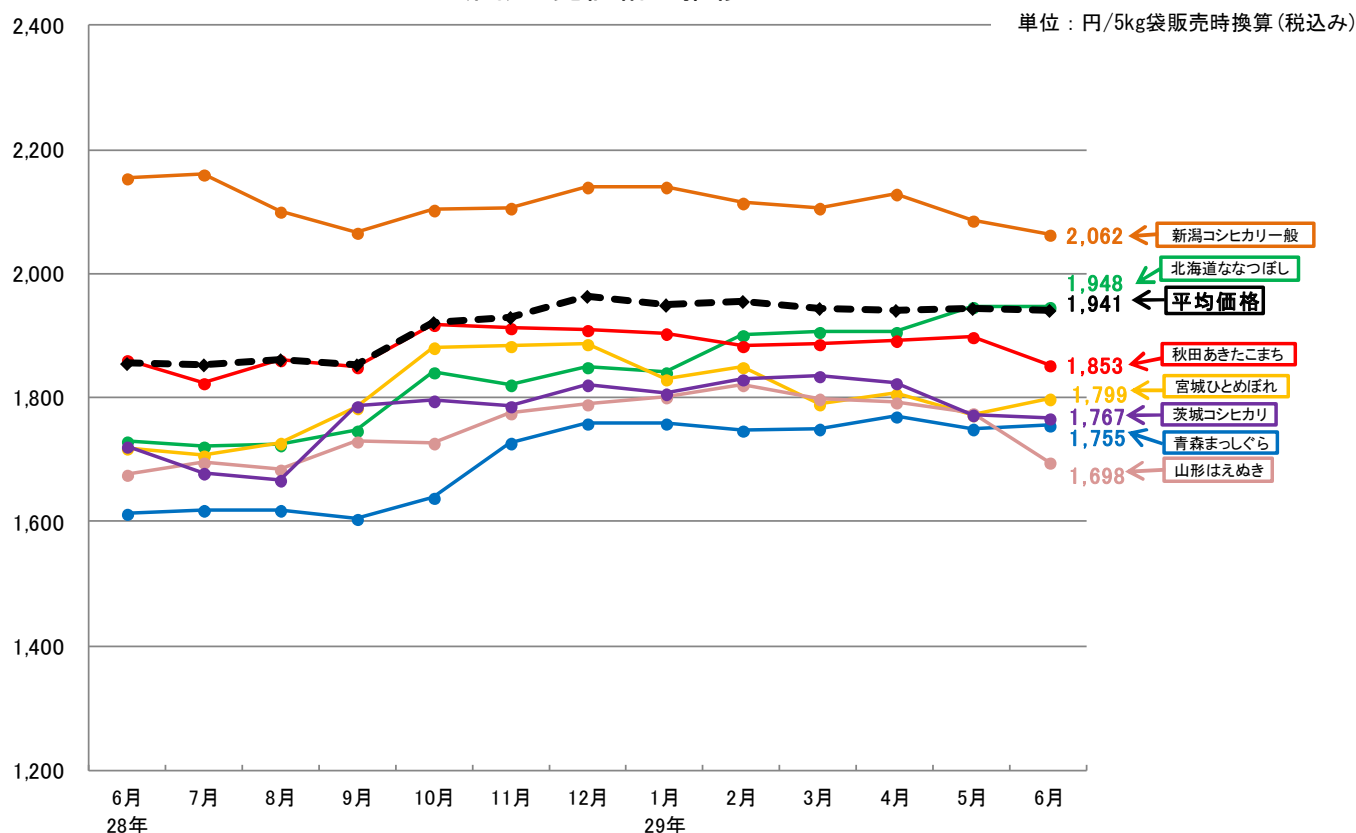
3：精米ベースである。

4：複数原料米については、平成23年12月をもって調査が終了した。

(5) 小売価格の推移 (POSデータ)

平成29年6月の小売価格(POSデータ)の平均価格(5kg当たり)は、前月より▲3円、前年同月より+84円(+4.5%)の1,941円。

(図)小売価格の推移



(表)小売価格の推移

単位：円/5kg袋販売時換算(消費税込み)

	品種銘柄							全POS取引 平均価格
	北海道 ななつぼし	青森 まっしぐら	宮城 ひとめぼれ	秋田 あきたこまち	山形 はえぬき	茨城 コシヒカリ	新潟 コシヒカリ一般	
28年6月	1,732	1,615	1,720	1,861	1,676	1,721	2,154	1,857
7月	1,721	1,621	1,707	1,826	1,697	1,679	2,160	1,852
8月	1,725	1,620	1,729	1,860	1,685	1,667	2,101	1,862
9月	1,746	1,604	1,785	1,849	1,732	1,789	2,065	1,853
10月	1,842	1,639	1,882	1,919	1,729	1,796	2,103	1,921
11月	1,823	1,727	1,885	1,913	1,776	1,788	2,106	1,931
12月	1,850	1,760	1,887	1,910	1,792	1,821	2,140	1,963
29年1月	1,843	1,759	1,830	1,905	1,802	1,808	2,141	1,949
2月	1,902	1,749	1,852	1,885	1,821	1,831	2,114	1,957
3月	1,907	1,751	1,792	1,887	1,798	1,835	2,105	1,945
4月	1,908	1,771	1,807	1,894	1,793	1,824	2,128	1,941
5月	1,948	1,750	1,775	1,898	1,776	1,773	2,086	1,944
6月	1,948	1,755	1,799	1,853	1,698	1,767	2,062	1,941
対前月比	0.0%	0.3%	1.4%	▲ 2.4%	▲ 4.4%	▲ 0.3%	▲ 1.2%	▲ 0.2%
対前年同月比	12.5%	8.7%	4.6%	▲ 0.4%	1.3%	2.7%	▲ 4.3%	4.5%

資料：(株) KSP-SPが提供するPOSデータに基づいて農林水産省が作成

注：1 (株) KSP-SPが提供するPOSデータは、全国約1,020店舗のスーパー、生協等から購入したデータに基づくものである。

2 POSデータは、データ提供企業から遅れて報告されるものもあるため、時点によって集計結果に若干のずれが生じることがあり、今後、修正されることもある。

3 POSデータの提供店舗数は、変動があることに留意が必要である。

4 平均価格は、POSデータで把握できる全ての精米の販売について5kg袋販売時に換算した上で加重平均を行った価格である。

5 価格に含む消費税は8%である。

Ⅶ MA米（一般・SBS）の動向

（１） MA米の輸入数量（輸入先国別及び輸入方式別）

（単位：千玄米トン）

	米 国	タ イ	中 国	オーストラリア	その他	合 計	うち一般輸入	うちSBS輸入※
平成7年度	194	107	32	87	5	426	415	11
平成8年度	233	144	40	87	6	511	488	22
平成9年度	290	151	46	95	13	596	537	55
平成10年度	313	152	78	109	29	681	551	120
平成11年度	339	159	86	115	24	724	591	120
平成12年度	356	168	99	120	24	767	632	120
平成13年度	364	146	136	110	11	767	655	100
平成14年度	361	153	112	96	44	767	710	50
平成15年度	355	153	110	90	51	759	647	100
平成16年度	361	185	98	20	103	767	661	94
平成17年度	362	186	84	19	116	767	655	100
平成18年度	358	179	76	52	102	767	654	100
平成19年度	358	243	82	－	13	696	585	100
平成20年度	430	261	72	－	6	769	658	100
平成21年度	358	332	71	－	5	767	655	100
平成22年度	356	345	19	40	6	767	725	37
平成23年度	358	241	56	71	40	767	658	100
平成24年度	362	281	46	64	13	767	656	100
平成25年度	359	351	1	41	15	767	700	61
平成26年度	359	332	55	14	6	767	754	12
平成27年度	359	344	56	1	6	767	734	29
平成28年度	376	375	3	7	7	767	685	73
平成29年度 （6月末現在）	－	11	－	－	－	11	11	－

資料： 農林水産省「米をめぐる関係資料」

※SBS輸入数量の単位は千実トン。

注： 1 各年度の輸入契約数量の推移。

2 ラウンドの関係で合計と内訳が一致しないことがある。

3 千実トンと千玄米トンのため合計は一致しないことがある。

（参考）MA米以外で、枠外税率を支払って輸入されるコメの数量は、毎年0.1～0.2千トン程度

(2) 加工原材料用に係る政府所有MA米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位：実トン)

販売期間	うるち	販売期間	もち
平成28年4～6月分	15,460	平成28年4～7月分	2,910
4月分	300	平成28年8～11月分	3,221
5月分	875	平成28年12～平成29年3月分	3,158
6月分	1,612		
7～9月分	24,101		
7月分	426		
8月分	676		
9月分	953		
10～12月分	20,437		
10月分	718		
11月分	2,972		
12月分	3,445		
平成29年1～3月分	31,697		
1月分	657		
2月分	435		
3月分	1,090		
小 計	105,854	小 計	9,289
合計	115,143		

資料：農林水産省「加工原材料用に係る政府所有ミニマム・アクセス米の見積合わせ結果の概要について」

(3) SBS輸入米の見積合わせ結果(平成28年度)

(単位：実トン)

		アメリカ		タイ		中国		その他		合計
		うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	うるち	もち	
第1回 (平成28年9月7日)	一般米	5,266	508	80		36		1,526		7,416
	砕精米	2,356	100	300	144	100				3,000
第2回 (平成28年12月16日)	一般米	5,169	576	538		600		1,501		8,384
	砕精米	2,600	100	300						3,000
第3回 (平成29年1月11日)	一般米	5,578	640	1,096		840		839		8,993
	砕精米	3,900	100	1,000						5,000
第4回 (平成29年1月25日)	一般米	2,875	480	362		340		396		4,453
	砕精米	4,400		600						5,000
第5回 (平成29年2月8日)	一般米	4,170	440	984	108	100		1,567		7,369
	砕精米	4,560	200	100		140				5,000
第6回 (平成29年3月3日)	一般米	4,260	956	427		240		2,268		8,151
	砕精米	7,004	200		244			100		7,548
合計	一般米	27,318	3,600	3,487	108	2,156	0	8,097	0	44,766
	砕精米	24,820	700	2,300	388	240	0	100	0	28,548
平成23年度計 (参考)	一般米	7,490	5,324	2,038	80	50,463	0	17,155	0	82,550
	砕精米	10,124	990	2,320	3,384	632	0	0	0	17,450
平成24年度計 (参考)	一般米	34,076	2,290	1,536	72	27,640	0	24,386	0	90,000
	砕精米	4,032	576	2,898	364	524	0	1,606	0	10,000
平成25年度計 (参考)	一般米	14,686	4,396	3,346	144	174	0	17,993	0	40,739
	砕精米	576	388	7,375	308	540	0	10,913	0	20,100
平成26年度計 (参考)	一般米	662	2,418	2,732	72	80	0	1,326	0	7,290
	砕精米	0	724	2,540	252	700	0	100	0	4,316
平成27年度計 (参考)	一般米	4,251	3,458	2,762	72	76	0	2,244	0	12,863
	砕精米	10,940	1,260	2,420	1,022	660	0	150	0	16,452

資料：農林水産省「輸入米に係るSBSの結果の概要」の平成23～28年度

VIII その他

(1) 水稻うるち玄米の農産物検査結果

- 平成28年産水稻うるち玄米の平成29年3月31日現在の検査数量は、前年産の同月と比べ+1.5%の458万トン。
- 1等米比率については、前年産より+1ポイントの83%。

① 検査数量の推移（累計）

単位：千トン

年産別	当年						翌年			
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	10月
24	13	223	1,732	3,750	4,156	4,313	4,411	4,532	4,657	5,041
25	23	265	1,869	3,806	4,248	4,433	4,537	4,661	4,793	5,206
26	12	229	1,789	3,785	4,276	4,470	4,595	4,720	4,880	5,275
27	11	220	1,537	3,506	3,964	4,149	4,252	4,385	4,518	4,869
参考：前年比	93%	96%	86%	93%	93%	93%	93%	93%	93%	92%
28	18	231	1,656	3,564	4,036	4,212	4,319	4,451	4,585	
参考：前年比	161%	105%	108%	102%	102%	102%	102%	101%	101%	

注：1 各月末時点の検査数量である。

2 生産年の7月から翌年3月までは速報値、翌年10月は確定値である。

② 検査数量及び等級比率（年産別）

単位：トン、%

年産別	検査数量	等級別数量				等級比率			
		1等	2等	3等	規格外	1等	2等	3等	規格外
18	4,776,481	3,746,166	822,163	112,475	95,677	78.4	17.2	2.4	2.0
19	4,805,870	3,826,432	795,452	95,082	88,903	79.6	16.6	2.0	1.8
20	5,093,440	4,073,571	849,087	76,542	94,240	80.0	16.7	1.5	1.9
21	4,818,603	4,102,807	582,137	48,396	85,263	85.1	12.1	1.0	1.8
22	4,859,642	3,013,076	1,570,194	152,813	123,559	62.0	32.3	3.1	2.5
23	4,753,193	3,840,127	759,339	60,000	93,727	80.8	16.0	1.3	2.0
24	5,041,489	3,953,978	910,522	82,760	94,229	78.4	18.1	1.6	1.9
25	5,205,717	4,112,147	905,866	96,289	91,415	79.0	17.4	1.8	1.8
26	5,274,634	4,291,267	806,063	70,348	106,956	81.4	15.3	1.3	2.0
27	4,868,582	4,016,682	687,771	82,654	81,475	82.5	14.1	1.7	1.7
28(注2)	4,584,593	3,824,029	635,059	62,986	62,518	83.4	13.9	1.4	1.4

資料：農林水産省とりまとめ

注：1 等級比率は、1等であれば農産物検査法に基づく検査の結果、1等に格付けされた割合である。

2 28年産米については、平成29年3月31日現在（速報値）。

(2) 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

－ 西南暖地における早期栽培の作柄は『やや良』又は『良』の見込み －

【調査結果の概要】

西南暖地の早期栽培の作柄は、高知県及び宮崎県で『やや良』、鹿児島県で『良』が見込まれる。これは、田植期以降おおむね天候に恵まれたことにより穂数及び全もみ数が「やや多い」ないし「多い」と見込まれ、台風等の被害も少ないと見込まれるためである。

沖縄県の第一期稲の作柄は、田植期以降の低温・日照不足や虫害等の影響により『やや不良』が見込まれる。

表 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）

区 分		平 年 比 較					田 植 期					出 穂 期					出穂済面積割合
		作柄 の良否	穂 数 の 多 少	一穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	登 熟 の 良 否	始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		始 期	最 盛 期	終 期	最盛期の比較		
										対 平 年	対 前 年				対 平 年	対 前 年	
						月 日	月 日	月 日	日	日	月 日	月 日	月 日	日	日	%	
高 知	やや良	多い	平年並み	多い	不良	4. 3	4. 13	4. 22	1	2	6. 25	7. 1	7. 11	△ 4	1	97	
宮 崎	やや良	やや多い	やや少ない	やや多い	平年並み	3. 20	3. 26	4. 5	△ 1	0	6. 21	6. 28	7. 3	2	7	100	
鹿 児 島	良	やや多い	やや多い	多い	やや不良	3. 19	4. 4	4. 15	0	0	6. 16	6. 29	7. 15	2	7	95	
沖 縄	やや不良	やや少ない	平年並み	やや少ない	平年並み	2. 18	3. 12	3. 8	7	7	5. 11	5. 25	6. 4	2	2	100	

注：1 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105～102%、「平年並み」が101～99%、「やや不良・やや少ない」が98～95%、「不良・少ない」が94%以下に相当する。

2 「最盛期の比較」欄の「△」は、平年（前年）より早いことを示している。

また、「対平年」は前5か年の平均値との比較である。

3 全国的水稻の収穫量に占める本表の4県における早期栽培等の割合は、平成28年産で1.0%となっている。

○ 西南暖地における早期栽培等とは、四国及び南九州の地域で主に台風による被害を避けるため8月中旬頃までに収穫する栽培方法並びに沖縄県における二期作の第一期稲である。

○ 平成29年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況（7月15日現在）は、「農林水産統計」からの抜粋。詳しくは、下記にて御覧いただけます。

農林水産省ホームページ「統計情報」

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】